ＩＴＵ-Ｒ　ＷＰ５Ｄ
第７回会合報告書

第１．０版

平成２２年５月２４日

日　本　代　表　団

ＩＴＵ－Ｒ　ＷＰ５Ｄ　第７回（イタリア、トリノ）会合報告書 目次

１．はじめに……1
２．会議構成……2
３．主要結果……3
３．１　全体の主要結果……3
３．２　各ＷＧ等の主要結果……3
４．所感及び今後の課題……6
５．各 WG 等における主要論議……7
５．１　WG GENERAL ASPECTS……7
５．２　WG TECHNOLOGY ASPECTS……8
５．２．１　SWG IMT SPECS……11
５．２．２　SWG M.1580 & M.1581……12
５．２．３　SWG RADIO ASPECTS……13
５．２．４　SWG EVALUATION……14
５．２．５　SWG COORDINATION……15
５．３　WG SPECTRUM ASPECTS……17
５．３．１　SWG SHARING STUDIES……20
５．３．１．１　DG UHF PARAMETERS & M.2039……25
５．３．１．２　DG IMT MITIGATION……27
５．３．１．３　DG ANTENNA ISOLATION……30
５．３．２　SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS……32
５．３．３　AH SPECTRUM……34
５．４　AH WORKPLAN……35
５．５　AH VOCABULARY……38
６．Region 3 非公式会合……40
７．今後の予定等……42
７．１　WP5D 及び関連会合の今後の開催予定……42
７．２　次会合に向けての日本のアクション事項……42
７．２．１　WG GENERAL ASPECTS 関係……42
７．２．２　WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係……42
７．２．３　WG SPECTRUM ASPECTS 関係……42
付属資料１　参加国・機関と寄与文書数……44
付属資料２　ITU-R WP5D 第 7 回会合日本代表団名簿……47
付属資料３　日本寄書等の審議結果……48
付属資料４　入力文書一覧（1/6）……50
付属資料５　出力文書一覧……56
付属資料６　各 WG の当面のスケジュール(1/2)……59
参考資料１　IMT-Advanced 無線インタフェース勧告の開発スケジュール……61

１．はじめに

IMT（IMT-2000 と IMT-Advanced を集合的に称するルートネーム）の地上系コンポーネントの更なる開発を目指す ”Future development of the terrestrial component of IMT” を所掌とする ITU-R SG5 (Study Group 5) WP5D (Working Party 5D)の第 7 回会合が、2010 年 2 月 17 日～2 月 24 日にイタリアのトリノにおいて開催されたので、その結果について報告する。

前回の WP5D 第 6 回会合（2009 年 10 月 14 日～10 月 21 日、ドイツのドレスデンにて開催）では、IMT-Advanced 候補技術提案の受け取りとその Acknowledgement に関する審議、さらに、その結果と今後のスケジュールを包含した提案者と各外部評価団体へのリエゾンレター文書の作成、IMT-2000 無線インタフェースの詳細勧告の第 10 版（M.1457-10）に向けた改訂草案の作業計計画の確認、IMT-Advanced 無線インタフェース技術評価のガイドラインに関するレポート（M.2135）のチャネルモデルに関する修正の承認、IMT の周波数配置に関する勧告（M.1036-3）の改訂に関する作業文書の更新、SG4 が作成した 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法[IMT-PFD]への対応、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業計画の作成及び IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に関する検討等が行われた。

今回の WP5D 第 7 回会合では、IMT-Advanced の選定プロセスのステップ 5 に対応した外部評価団体からの中間評価報告についての検証、IMT-2000 無線インタフェースに関した詳細勧告の第 10 版（M.1457-10）に向けた改訂及び M.[IMT.RSPEC]のワークプラン並びに不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 の第 4 版に向けた改訂の討議、IMT.RADIO に関する作業文書の作成及び CRS に関する討議、IMT の周波数配置に関する勧告（M.1036-3）の改訂に関する作業文書の更新、[IMT.700]の作業文書の更新、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]の作成、レポート M.2039（IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータ）改訂に向けた作業文書の更新及び IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]の作成等が重点として議論された。

今回の会合には、33 ヶ国及び 28 機関から合計 178 名の参加（付属資料 1 参照）があり、そのうち、日本からは 18 名が参加した（付属資料 2 参照）。

入力文書は合計 80 件であり、そのうち日本から入力した寄書は 6 件（日本・中国・韓国の共同寄書 2 件を含む）、ARIB からの入力寄書が 1 件であった（付属資料 3、4 参照）。なお、前回会合からキャリーフォワードされた文書が 4 件あった。

本会合における出力文書（TEMP 文書）は合計 45 件であった（付属資料 5 参照）。

２．会議構成

各 WG 等の担当項目と議長を表 1 に示す。

日本は各 WG、SWG、AH 及び DG に積極的に参加し、会議の進展に貢献した。

表 1　各 WG 等の担当項目と議長

Group	担当項目	議　長
WP5D	ITU-R WP5D 全体	S. BLUST（米）
WG GEN（GENERAL ASPECTS）	IMT 関連の全般的事項	K. J. WEE（韓）
DG HANDBOOK SUPPLEMENT 1	ITU-D SG2 の IMT-2000 ハンドブック（GST）サプリメント 1 改定	E. Ehrlich（WiMAX フォーラム）
WG SPEC（SPECTRUM ASPECTS）	スペクトラム関連	A. JAMIESON（ニュージーランド）
SWG – SHARING STUDIES	周波数共用研究	M. KRAEMER（独）
DG Antenna Isolation	IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案	S. MAGNUSSON（エリクソン）
DG IMT Mitigation	IMT と FSS 間の共用改善技術の新勧告草案	J. LEWIS サムソン）
DG UHF + 2039	UHF 帯共用検討 IMT パラメータ、レポート M.2039 の改訂案の検討	J. P. MILLET（仏）
SWG – FREQUENCY ARRANGEMENTS	周波数アレンジメント勧告（M.1036-3）の改訂案	Y. ZHU（中） A. SANDERS（米）
AH SPECTRUM	決議 224（WRC-07 改）関連の UHF 帯共用検討	A. JAMIESON（ニュージーランド）
WG TECH（TECHNOLOGY ASPECTS）	無線伝送技術関連	L. SUN（中）
SWG – IMT_SPECS	既存勧告の維持改定管理（無線伝送技術勧告（M.1457）、QoS 要求条件（M.1079））、新勧告草案 IMT.RSPEC 作業	N. P. MAGNANI（伊）
SWG – M.1580&1581	不要輻射	U. LÖWENSTEIN（独）
SWG – RADIO ASPECTS	無線関連技術	M. GRANT（米）
DG Cognitive Radio Systems for IMT	IMT 特化のコグニティブ無線	St. Ward（米）
DG IMT. RADIO	IMT.RADIO 関連事項	E. Lim（韓）
SWG – EVAL	無線インタフェース技術評価作業	H. WANG（中）
SWG COORDINATION	評価グループのコーディネート作業	本多美雄（日）
AH VOCABURARY	用語関連	H. MENNENGA（独）
AH WORKPLAN	WP5D 全体の作業計画等調整	H. OHLSEN（スウェーデン）

３．主要結果

３．１　全体の主要結果

- 2012～2020 年における IMT ネットワークの検討提案に基づいて、IMT-Advanced 以降の議論が開始された。
- 2010 年以降 10 年間におけるビジョンや市場動向について意見交換を行うことを目的とした半日間のワークショップを次々回会合で行うことで合意した。
- IMT の周波数アレンジメント勧告（M.1036-3）の改訂に向けた作業文書の更新を行った。
- 698-960MHz 帯の IMT のための周波数アレンジメントの検討に関する作業文書[IMT.700]は、作業を継続することと最終的な取り扱いを勧告 M.1036 改訂案が完成した時点で決定することで合意した。
- 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書を作成した。
- IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータに関するレポート（M.2039）の改訂に向けた作業文書の更新を行うと共に、改訂に必要な情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体に発出した。
- IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]の作業文書の更新を行った。
- 決議 224（WRC-07 改）に基づく UHF 帯の共用検討を開始することで合意し、作業計画を作成した。
- SWG-M1457 は、その所掌に IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告草案[IMT.RSPEC]を含めることとし、名称を SWG-IMT SPECS に変更した。
- 勧告草案[IMT.RSPEC]に関しては、WP5D 第 10 回会合（2011 年 3 月開催予定）で完成させることを確認し、その作業計画を作成した。
- IMT-Advanced の無線インタフェースのフレームワークと特性に関する文書[IMT.RADIO]は、レポートとして作成することで合意した。
- Cognitive Radio Systems に関しては、WP5D 第 11 回会合（2011 年 6 月開催予定）での完成を目標として作業を進めることで合意した。
- IMT-Advanced の選定プロセスに係わる作業の一環として、11 の外部評価団体から中間/暫定レポートが入力された。
- 外部評価団体に対して、次回の WP5D 第 8 回会合に最終評価レポートの入力を要請するリエゾン文書を発出した。

３．２　各ＷＧ等の主要結果

(1)　WG GENERAL ASPECTS

- 今会合では、2 件の新規リエゾン文書と 2 件の新規入力文書について検討を行った。
- ITU-T SG5 からの K.deg に関するリエゾン文書については、すでに ITU-R WP5A が ITU-T SG15 に出しているリエゾン回答文書に記載されている“装置内に複数の無線機が相互に外乱を及ぼす場合は ITU-R の責任範囲である”を流用し、WP5D としてのリエゾン回答文書（TEMP/293）を作成し、ITU-T SG15 に発出することとなった。
- ITU-R WP5A からのレポート M.1051-1“Public mobile telephones service with aircraft”の改訂に向けた寄与依頼に関するリエゾン文書（5D/602）については、“WP5D では 6 月会合で引き続き検討する”旨をリエゾン回答文書（TEMP/292）としてまとめ、ITU-R WP5A に発出することとなった。
- Handbook と Handbook Supplement 1 の改訂提案（5D/637）については、ITU-D と ITU-T に Handbook 改訂に関する意見を求めるリエゾン文書（TEMP/296）を作成し、次回の 6 月会合にキャリーフォワードされることとなった。また、5D/637 を元に作成した、Handbook Supplement 1 の作業文書（TEMP/298）についても、次回の 6 月会合にキャリーフォワードされることとなった。

・ 2012～2020 年の期間における新たな IMT ネットワークの検討提案（5D/612）については、WG-GEN の議長報告（TEMP/324）に、次回会合以降の進め方に関するたたき台が議長報告の ANNEX として添付され、これについても次回会合にキャリーフォワードされることとなった。なお、5D/612 は次回の 6 月会合にキャリーフォワードされることとなった。また、本件に関連し、10 月会合において 2010 年以降 10 年間におけるビジョンやマーケットについて意見交換を行うことを目的とした半日間のワークショップを開催することとなった。

(2) WG TECHNOLOGY ASPECTS

・ 従来 IMT-2000 の詳細無線インタフェース勧告を所掌としていた SWG-M1457 はその所掌に IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]を含めることとし、名称を SWG-IMT SPECS に変更した。
・ IMT-Advanced の選定プロセスに関わる作業に関しては、10 の外部評価団体からの中間レポート及び ARIB Evaluation Group からのステータスレポート、3GPP/IEEE からの Workshop/Coordination Meeting 報告及び CG（コレスポンデンスグループ）コンビナからの入力があり、評価に対して必要情報の欠落等の特に問題となる事項は無いことが確認された。また、ITU が主催する評価団体の Coordination Meeting は不要との結論となった。
・ IMT-Advanced 無線インタフェース候補の評価に関しては、外部評価団体からの中間レポートの内容確認及び ITU 文書との整合性確認を実施し、特に Handover Interruption Time、Peak Spectrum Efficiency、VoIP Capacity 評価時の HARQ 等に関して技術的討議を行った。
・ Peak Spectral Efficiency の項目では最小要求条件を定めたレポート ITU-R M.2134 と評価方法を定めた M.2135 との間に齟齬が発見され、これを M.2135-1 において追加修正することとした。
・ 外部評価団体には今回会合の結論を連絡し、6 月に向け最終評価レポートの入力を要請するリエゾンを作成し、発出した。
・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 10 版に向けての改訂に関しては、ロードマップの変更案が入力されこれを更新した。但し、OFDMA TDD WMAN に関しては P802.16m 関連の記述があり、IMT-Advanced との関係、ロードマップの意味等を次回会合で再度討議することとした。
・ IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては 2011 年 3 月の第 10 回会合での完成させることを確認しワークプランを作成した。但し、ドキュメント構成及び手順が決定していない為、何を以って完成とするかは次回会合での AH-Workplan 側の結論を待つこととした。
・ IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては、各々第 4 版に向けた改訂の討議を実施し、次版に向けた改訂作業文書を作成し、次回会合にキャリーフォワードした。
・ IMT.RADIO に関しては、文書形式に関する討議を行い、IMT-Advanced 無線インタフェースの決定段階で SG5 の承認を受けるべきとの意見が多数を占めたためレポートとして作成することに決定した。具体的な内容はステップ毎の結果を記載するとのもので前回までの討議内容と変更は無い。また、DG を設けて作業文書を作成して次回会合にキャリーフォワードした。
・ Cognitive Radio Systems に関しては、第 11 回会合を目標として作業を進めることに合意し、作業文書を作成した。本作業は他 WPs の作業をチェックしながら進めることとなっており、完成時期も WP5A 以降であるため、WP5A 側の支障となることはない。
・ ITU-T SG15 の Home NW 関連のリエゾンに関しても検討し、Femto Access Node に関する情報を提供するリエゾンを作成し、発出した。

(3) WG SPECTRUM ASPECTS

周波数アレンジメント関連

- 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改訂の作業文書の更新を行い、キャリーフォワードした（TEMP/300）。作業文書には、日本の提案内容（5D/631）が概ね反映された。なお、継続議論となっている、Flexible FDD/TDD と呼ばれる周波数アレンジメントのフレキシビリティに関する扱いについて、今会合でも合意に至ることができず、継続議論とすることにした。また、作業計画に変更はなく、勧告改訂案の完成時期は第 10 回会合（2011 年 3 月）のままとした（TEMP/299）。
- 作業文書[IMT.700]の扱いについて、欧州（5D/610）、米国（5D/616）からは作業中止を求める意見が出されていたが、日本（5D/632）、カナダらが、欧州、米国以外では 700MHz 帯の周波数アレンジメントに関する作業が継続しているとの主張を行い、作業を継続すること、文書形式は勧告 M.1036 改訂案が完成した時点で決定することで合意した。なお作業文書は、日本の提案内容が反映され、キャリーフォワードした（TEMP/295）。

共用検討関連

- 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]作成に向け、作業文書の作成を行い、キャリーフォワードした（TEMP/302）。新勧告案のスコープ、タイトルに関し、日本からは周波数帯に独立した記載を提案（5D/633）したが、米国、ロシア等から懸念が示され、スコープ等は 3.4-3.6GHz の周波数を対象としつつ、各技術は周波数に依存しないとの注釈をつけることで合意した。本作業を伝えるリエゾン文書を WP4A（WP5A にも情報提供）に発出する（TEMP/303）とともに、共用改善技術に関する情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体に発出した（TEMP/304）。なお、作業計画に変更はなく、新勧告案の完成時期は第 9 回会合（2010 年 10 月）のままとした（TEMP/319）。
- レポート M.2039（IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータ）改訂に向けた作業文書の更新を行い、キャリーフォワードする（TEMP/310）とともに、改訂に必要な情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体に発出した（TEMP/311）。上記検討に際して、日本からの提案（5D/635）の通り、複数の周波数帯でパラメータを共通化することの妥当性を外部団体に問い合わせること、改訂の対象は IMT-2000 のみとすること（IMT-Advanced は対象としない）で合意した。なお、作業計画に変更はなく、完成目標は第 9 回会合（2010 年 10 月）のままとした（TEMP/319）。
- IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO] の作成に向け、作業文書の更新を行い、キャリーフォワードした（TEMP/305）。本作業を伝えるリエゾン文書を WP1A 及び WP5A（ITU-T SG5 へも情報提供）に発出した（TEMP/306）。なお、作業計画に変更はなく、完成目標は第 9 回会合（2010 年 10 月）のままとした（TEMP/319）。
- JTG5-6 からの問い合わせ（5D/609）に基づき、WRC-12 議題 1.17 の検討に必要な IMT パラメータの追加情報に関するリエゾン文書を、JTG5-6（WP 6A へも情報提供）へ発出した（TEMP/307）。
- JTG5-6 との作業重複を避けるため休止していた決議 224（WRC-07 改）に基づく UHF 帯の共用検討について、WP6A からのリエゾン文書（5D/608）の情報や、米国からの提案（5D/617）を考慮して検討を開始することで合意し、作業計画を作成した（TEMP/308）。作業計画では、第 12 回会合（2011 年 10 月）に、新レポート案を完成する予定となっている。本作業を伝えるリエゾン文書を WP6A（WP5A、5B、5C へも情報提供）へ発出した（TEMP/309(Rev.1)）。
- M.1457 への異なる複信方式の追加に関する共用検討について、関連する寄与文書の入力はなかった。前々回、及び前回会合からキャリーフォワードされていた文書は、今後も電子的に参照可能であるため、検討が必要な場合には、これらの文章を参照して議論を再開することとした。
- WRC-12 議題 1.5 に係る WP5C からのリエゾン文書（5D/605）に対して、米国からの提案（5D/617）に基づいて、共用検討の必要性等の見解を含むリエゾン文書を作成し、WP5C（WP6A にも情報提供）へ発出した（TEMP/318）。

(4) AH WORKPLAN

- WP5D の全般的ワークプランの最新化が行われた。
- 韓国寄書を発端に、新勧告草案 ITU-R M.[IMT.RSPEC]のスケジュールの議論が行われた。その韓国提案では第 10 回会合（2011 年 3 月）で finalize するとしており現状に変更はない。しかし、外部の標準化母体のスケジュールを聞く必要があるとして、次回会合で寄書を募って決めることとした。
- 次の第 8 回 WP5D 会合はベトナムから招聘が行われた。

(5) AH VOCABULARY

- 今後の作業の進め方を討議し、レポートとして IMT に特化した新規または CCV に登録されている定義と異なる用語リストを作成していくことで合意した。
- AH 議長より Opening Plenary で各 WG/SWG に対して用語のリストを要望した結果、SWG Sharing より内部リエゾンを受領、次回会合移行で作業を実施するとしキャリーフォワード(TEMP/291R1)とした。

４．所感及び今後の課題

- IMT-Advanced のビジョンや市場動向に関する検討は、我が国がこれまでリードしてきた経緯があるので、これまでの経験・蓄積を活かして、本検討に関しては積極的に貢献するとともにリーダーシップをとることが重要であろう。
- 698-960MHz 帯の IMT のための周波数アレンジメントの検討に関する作業文書[IMT.700]の検討を継続することで合意したが、作業文書の最終的な取扱いについては、勧告 M.1036 の改訂草案の完成時期（第 10 回会合；2011 年 3 月）に決定することになったため、APT 無線フォーラムでの合意形成も含めて、今後とも継続的な対応が必要である。
- 今会合への入力寄与文書（ステータスレポート）の中で、ARIB 評価グループは外部評価は行わないことを宣言したが、評価に関するコレスポンデンスグループの関連フォーラムに対しては、日本は 2 つの候補技術のプロポーネントとしての必要な対応を、ARIB 評価グループは他の評価グループとの情報・意見交換を継続して行う必要があろう。
- IMT-Advanced の開発プロセスも中間点を過ぎ、詳細無線インタフェース仕様勧告[IMT.RSPEC]の草案作成に向けた準備作業が今会合で開始し、作業計画に沿った形で順調に進んでいるが、第 10 回会合での勧告草案完成に向けて積極的に対応する必要がある。

５．各WG等における主要論議

５．１　WG GENERAL ASPECTS

(1)　議　　長：Dr. K. J. Wee (韓)

(2)　主要メンバ：日本代表団（坂中、佐藤(孝)、佐藤(一)、石川、林、菅田、小西）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、ドイツ、イタリア、フランス、Ericsson、WiMAX Forum、他、全 40 名程度

(3)　入力文書：5D/612（Ericsson, Nokia, NSN, NTT ドコモ）、5D/637（WiMAX Forum）、5D/598（ITU-T SG5）、5D/602（ITU-R WP5A）

(4)　出力文書：5D/Temp/324（WG General Aspects 会合報告）、5D/Temp/298（Handbook Supplement 1 改訂に向けた作業文書）、5D/Temp/293（ITU-T SG5 へのリエゾン・バック文書）、5D/Temp/292（ITU-R WP5A へのリエゾン・バック文書）、

(5)　審議概要：

(5-1)　経緯と所掌

本 WG では、将来のサービスやマーケットの予測をはじめ、Question ITU-R 229-2/5（IMT 地上コンポーネントの将来の開発）の内容の中で、WP5D 内の他の WG が未検討の内容を検討対象とする。第 6 回会合にて、WG-Developing Aspects が本 WG に吸収されたことから、WG-Developing Aspects で扱っていた ITU-D との連携業務や IMT-2000 Handbook 関連の業務についても本 WG で扱っている。

(5-2)　審議概要と主要結果

- ITU-T SG5 で 2009 年 10 月 12～16 日に ITU-T SG5 会合が開催され、新勧告 K.deg “Mutual-disturbance test requirements for performance degradation evaluation of converged terminal devices”の第一版が議論された。今回、ITU-T SG5 から出された本勧告文書 K.deg に関するリエゾン文書（5D/598）に対しては、すでに ITU-R WP5A が ITU-T SG5 にリエゾン回答文書（5D/606）を提出している。本リエゾン回答文書に記載されている WP5A の見解が WP5D と同じであることから、同リエゾン回答文書に記載されている “装置内に複数の無線機が相互に外乱を及ぼす場合は ITU-R の責任範囲である”という旨を WP5D としてのリエゾン回答文書（TEMP/293）にまとめ、ITU-T SG5 に発出することとなった。
- 昨年12月に開催されたITU-R WP5AではレポートM.1051-1“Public mobile telephones service with aircraft”を改訂することが合意された。ITU-R WP5A から WP5D に対して送付されたリエゾン文書（5D/602）には、「公衆移動通信システムとしては、セルラシステムも含まれるため、WP5D から本レポートの改訂に向けてコメント願いたい」、という依頼があった。これに対し、本件については WP5D 内で継続検討すべきであること、また、WP5A での改訂作業には時間的猶予があることから、“WP5D では 6 月会合で引き続き検討する”旨をリエゾン回答文書（TEMP/292）としてまとめ、ITU-R WP5A に発出することとなった。
- Handbook と Handbook Supplement 1 の改訂提案（5D/637）については、まず、ITU-D と ITU-T の Handbook 改訂に対する見解が必要と判断し、ITU-D と ITU-T に対してリエゾン文書（TEMP/296）を作成した。なお、本リエゾン文書を早急に送付する必要がないため、各国並びに各セクタメンバの代表団の意見照会のため、本リエゾン文書を次回の 6 月会合にキャリーフォワードすることで合意した。また、5D/637 を元に作成した、Handbook Supplement 1 の作業文書（TEMP/298）についても、次回の 6 月会合にキャリーフォワードされることになり、引き続き改訂作業を進めることで合意した。
- 2012～2020 年の期間における新たな IMT ネットワークの検討提案（5D/612）については、検討の必要性について同意された。これを受けて、WG-GEN 議長が議長報告（TEMP/324）の ANNEX に、次回会合以降の進め方とマイクロ・ワークプランのたたき台を作成し、この ANNEX の部分が次回の 6 月会合にキャリーフォワードされることとなった。また、5D/612 についても継続検討のため、次回の 6 月会合にキャリーフォワ

ードされることとなった。さらに、本件に関連し、10 月会合において 2010 年以降 10 年間におけるヴィジョンやマーケットについて意見交換を行うことを目的とした半日間のワークショップを開催することとなった。

(6) 今後の課題：

キャリーフォワードされた文書とその関連の勧告文書やレポート文書について日本国内で検討し、我が国にとって不利となる拙速な結論や方向性が導かれないよう、必要に応じて寄書入力を行う。具体的には以下のとおりである。

- M.1051-1 の改訂：WP5D として改訂が必要な箇所について国内で意見を集約し、必要に応じて寄書入力を行う。
- Handbook 関連：Handbook や Handbook Supplement 1 の改訂の位置づけや方向性について日本国内での意見を集約し、必要に応じて寄書入力を行う。
- 2012～2020 年の検討：キャリーフォワードされた議長報告（TEMP/324）の ANNEX に記載されている関連勧告文書並びに関連レポート文書の見直しを行い、検討の方向性について国内の意見を集約し、必要に応じて寄書入力を行う。

５．２ WG TECHNOLOGY ASPECTS

(1) 議　　長：Lixin Sun（中国）

(2) 主要メンバ：日本代表団（坂中、佐藤(孝)、橋本、鬼頭、広池、木幡、新、田中、菅田、小西、本多、林、佐藤(一)、北、森脇、小松、吉井、石川）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、インド、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他全 150 名程度

(3) 入力文書

(3-1) RSPC 勧告 M.1457 Update, M.[IMT.RSPEC]

5D/601 (IEEE) , 5D/613,615 (Agilent, ALU, Qualcomm), 5D/614 (ATIS), 5D/620,621 (AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Huawei, NTT DoCoMo, NTT, Nokia, NSN, OKI, Samsung, Telecom Italia, Ericsson), 5D/640 (ETSI), 5D/663 (韓国)

(3-2) 不要輻射勧告 M.1580/M.1581

5D/636 (WiMAX Forum)

(3-3) Radio Aspects 関連

5D/604 (WP5A), 5D/611 (ITU-T SG15), 5D/627 (仏), 5D/647 (中国), 5D/648 (日中韓), 5D/658 (AT&T, Nokia, Ericsson)

(3-4) EVAL 関連

5D/650 (BR/ChEG), 5D/651 (BR/WFEG), 5D/652,653 (BR/TTA PG707), 5D/657 (BR/TCOE India), 5D/660,661 (BR/WINNER+), 5D/662 (BR/REG), 5D/667 (BR/WCAI EG), 5D/668 (BR/CEG), 5D/669 (BR/TIA TR-45), 5D/670,671 (ATIS), 5D/674 (CG Convener), 5D/645 (中国)

(3-5) Coordination 関連

5D/630 (日中韓), 5D/623 (IEEE),5D/628 (BR/ARIB EG), 5D/629 (BR/3GPP), 5D/650 (BR/ChEG), 5D/651 (BR/WFEG), 5D/652,653 (BR/TTA PG707), 5D/657 (BR/TCOE India), 5D/661 (BR/WINNER+), 5D/662 (BR/REG), 5D/667 (BR/WCAI EG), 5D/668 (BR/CEG), 5D/669 (BR/TIA TR-45), 5D/670,671 (ATIS), 5D/674 (CG Convener)

(3-6)　その他

5D/599 (ITU-T SG15: ANTS), 5D/602 (WP5A : M.1051), 5D/603 (WP5A : Other)

(4)　出 力 文 書：

5D/TEMP/288r1 (M.1580-4 Working Document),
5D/TEMP/289r1 (M.1581-4 Working Document),
5D/TEMP/290r2 (SWG-M.1580/81 Meeting Report),
5D/TEMP/312r1v2 (ITU-T SG15 に対する Femto Access Node に関するリエゾン),
5D/TEMP/313 (IMT.CRS の Micro Workplan),
5D/TEMP/314 (IMT.CRS Working Document),
5D/TEMP/315r1 (IMT.RADIO Working Document),
5D/TEMP/316r1v2 (Independent Evaluation Groups に対する評価作業に関するリエゾン),
5D/TEMP/317r2 (SWG-Coordination Meeting Report),
5D/TEMP/321 (M.1457 Roadmap),
5D/TEMP/322 (M.[IMT.RSPEC]の Micro Workplan),
5D/TEMP/323r1 (SWG-IMT SPECS Meeting Report),
5D/TEMP/325 (SWG-EVAL Meeting Report),
5D/TEMP/326r1 (SWG-Radio Aspects Meeting Report),
5D/TEMP/331r1 (IMT.RADIO の Micro Workplan),
5D/TEMP/332v2 (WG-TECH Meeting Report)

(5)　審 議 概 要：

(5-1)　所掌と経緯

本 WG は、IMT-2000 の無線インタフェースに関する技術仕様の改訂、IMT-Advanced の無線技術の検討を所掌としている。

本会合の検討課題は、RSPC 勧告 M.1457 の改訂検討、不要輻射勧告 M.1580/M.1581 改訂検討、IMT-Advanced 無線インタフェースの選定作業及び IMT.RADIO, CRS に関する検討であった。

(5-2)　体制

下記の 5 つの SWG という体制で審議を行った。

Group	Chairman	Topic
SWG IMT SPECS	Nicola Pio Magnani (伊)	RSPC勧告M.1457の第10版に向けた改訂原案検討 M.[IMT.RSPEC]の開発スケジュール検討
SWG M.1580/81	Uwe Lowenstein (独)	不要輻射勧告M.1580/81の第4版に向けた改訂原案検討
SWG Radio Aspects	Marc Grant (米)	IMT.RADIO及びCognitive Radio Systemsに関する検討
DG-CRS	Stephen Ward (米)	IMT.CRSの検討
DG-IMT.RADIO	Eun Taek Lim (韓)	IMT.RADIOの検討
SWG EVAL	Hu Wang (中)	レポートITU-R M.2135の改訂及びIMT-Advanced無線インタフェース提案の評価
SWG Coordination	Yoshio Honda (日)	IMT-Advanced無線インタフェース提案入力の受領対応

(5-3)　審議概要と主要結果

1) Coordination 関連 ：IMT-Advanced の無線インタフェースに関しては、日中韓から 5D/530 で今回会合における必要作業及び進め方が提案され、それに基づいてステップ 5 の作業を実施した。今回会合では、前回会合と今回会合の間に実施された IEEE の Evaluation Group Coordination Meeting (5D/623)、3GPP の LTE-Advanced Evaluation Workshop 報告(5D/629)、Correspondence Group Convener の CG 報告(5D/674)、ARIB EG (5D/628)、Chinese EG (5D/650)、WiMAX Forum EG (5D/651)、TTA PG707 (5D/652,653)、TCOE India (5D/657)、WINNER+ (5D/661)、Russian EG (5D/662)、WCAI WG (5D/667)、Canadian EG (5D/668)、TIA TR-45 (5D/669)及び ATIS EG (5D/670,671)の 11 の Independent Evaluation Group から中間報告があり、無線インタフェース候補の評価に際して、必要情報の欠落等の特に問題となる事項は無いことが確認された。

また、無線インタフェース候補の提案者から第 2 回の Workshop/Coordination Meeting を開催予定であることが連絡されたため、ITU が主催する Independent Evaluation Group の Coordination Meeting は行わないことを決定した。

Independent Evaluation Group に対しては今回会合での結論を連絡するリエゾン (TEMP/316r1v2)を発出した。また、Correspondence Group に参加している提案者及び Independent Evaluation Group の代表者の情報を ITU Web Site に公開することに決定した。

なお、TCOE India の中間報告で提言されていた、大規模セルに於ける評価関連(含む評価モデル)に関しては、CG の Forum 3 (Independent Evaluation Group 間の情報共有)において討議を行うことと決定した。

Evaluation 関連 ：Chinese EG (5D/650)、WiMAX Forum EG (5D/651)、TTA PG707 (5D/652,653)、TCOE India (5D/657)、WINNER+ (5D/661)、Russian EG (5D/662)、WCAI WG (5D/667)、Canadian EG (5D/668)、TIA TR-45 (5D/669)及び ATIS EG (5D/670,671)の 10 の Independent Evaluation Group から技術的評価の中間報告があり、各々に対して質疑を実施した。評価において、特に論議となった項目は Handover Interruption Time、Peak Spectrum Efficiency 及び VoIP Capacity 評価時の HARQ 等であり、特に Peak Spectral Efficiency に関しては、必要最小条件を定めたレポート ITU-R M.2134 と評価方法を規定している M.2135 の間で考慮すべき Overhead の規定 （L2 Overhead の取り扱い）が異なっていたため、Canadian Evaluation Group の中間報告で問題となっていた。SWG では両レポートの整合性を図るため、M.2135 側を修正することに決定し、M.2135-1 に反映させることとした

なお、次回会合で入力される最終評価レポートは IMT-ADV 文書とすることが合意され、SWG-EVAL で作成することが決定した。

2) RSPC 勧告 M.1457 Update: 勧告 M.1457 の第 10 版に向けた改訂については 5D/620,621 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、5D/613,615 により 3GPP2 メンバから 5.2 章(CDMA MC)、5D/614 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)、5D/640 により ETSI から 5.5 章、5D/601 により IEEE から 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)、の入力があり、それに基づいてロードマップを改訂した。但し 5D/601 には P802.16m 関連の記述があり、当該技術が IMT-Advanced 候補無線インタフェースとして提案されているものであることから、IMT-2000/IMT-Advanced の関係、ロードマップの目的・意味等に関する議論となり、次回各国・各メンバからの入力を待って再度討議することとした。

3) M.[IMT.RSPEC]: IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては今回 5D/663 により韓国から Micro Workplan の提案があり、完成時期等に関して議論を行った。結論として今までの合意通り第 10 回会合にて Finalize とされたが、M.[IMT.RSPEC]の構成(M.1457 と同様に各 SDO への Link 方式で行うのか、M.1457 の初版のように全て記載するのか)、記載する無線インタフェース自体も未決定なため、議論が噛み合わず、“ファイナライズ”の用語の意味等は AH-Workplan で討議決定してもらうこととし、TEMP/332 に Micro Workplan を作成した。

4) 不要輻射勧告 M.1580/1581: 勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては今回 OFDMA TDD WMAN に関する改訂

提案(5D/636)があり、改訂に向けた作業文書を TEMP/288r1 (M.1580)、TEMP/289r1 (M.1581)に作成した。

5) CRS 関連 ：CRS に関しては今回 WP5A、フランス、中国から寄書入力があり、WP5A からの入力、及び WP5B 等が独自に CRS の検討を実施していることから、WP5D でも IMT に特有事項の検討は問題無いとの判断となり、DG を設けて Micro Workplan を TEMP/313 に、作業文書を TEMP/314 に作成した。

6) IMT.RADIO 関連 ：IMT.RADIO に関しては今回日中韓 5D/648、AT&T、Nokia Ericsson から 5D/658 の入力があり、討議を行った。AT&T 等は記載内容に関しては IMT-Advanced 無線インタフェース選定の各ステップの記録とするとしながらも、ステップ 7 で無線インタフェースを決定した段階で SG5 において承認を受けるべきとし、文書形態をレポートとして提案していた。日本等から確認の質問等を行い議論となったが、中国を含め大多数がレポートとすることを支持し、文書形態を ITU-R レポートとすることに決定した。内容に関しては DG を設け、日中韓寄書 5D/648 の内容を盛り込んで作業文書を TEMP/315r1 に作成、Micro Workplan を TEMP/331r1 に作成して次回会合にキャリーフォワードした。

7) その他 ：ITU-T SG15 からの ITU-T 勧告 G.9971 に関するリエゾンに対しては、Femto Access Node に関する情報を提供するリエゾンを TEMP/312r1v2 に作成し、発出した。

8) SG8 に承認を求める文書。

無し

9) Carry forward documents: 今会合では、下記文書を次回会合へキャリーフォワードすることにした。

5D/TEMP/288r1 (M.1580-4 Working Document),
5D/TEMP/289r1 (M.1581-4 Working Document),
5D/TEMP/314 (IMT.CRS Working Document),
5D/TEMP/315r1 (IMT.RADIO Working Document),
5D/TEMP/321 (M.1457 Roadmap)

10) Bookshelf に入れた Document。

無し

５．２．１　SWG IMT SPECS

(1) 議　　長：Nicola Pio Magnani (伊)

(2) 主要メンバ：日本代表団（佐藤(孝)、広池、林、吉井、石川）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、ドイツ、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他全 45 名程度

(3) 入力文書：5D/601 (IEEE) , 5D/613,615 (Agilent, ALU, Qualcomm), 5D/614 (ATIS), 5D/620,621 (AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Huawei, NTT DoCoMo, NTT, Nokia, NSN, OKI, Samsung, Telecom Italia, Ericsson), 5D/640 (ETSI), 5D/663 (韓国)

(4) 出力文書：
5D/TEMP/321 (M.1457 Roadmap),
5D/TEMP/322 (M.[IMT.RSPEC]の Micro Workplan),
5D/TEMP/323r1 (SWG-IMT SPECS Meeting Report),

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、WG-TECH 管轄既存勧告の改訂と維持、TECHNOLOGY に関する他部門との連携、Question に対する検討、及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告の検討である。既存勧告とは、M.1457 (IMT-2000 詳細無線インタフェース仕様)、M.1079（QoS 要求条件）であり、今回会合では M.1457 改訂及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告に関する論議が実施された。

(5-2) 審議概要と主要結果

勧告 ITU-R M.1457 の各無線インタフェースに対しては、第 10 版に向けた改訂に関して 5D/620, 621 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、5D/613, 615 により 3GPP2 メンバから 5.2 章 (CDMA MC)、5D/614 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)、5D/640 により ETSI から 5.5 章, 5D/601 により IEEE から 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)の入力があり、次回更新情報の入力を行うとの連絡があった。また、3GPP2 系からは、具体的な変更テキストが入力されたが、次回再度最終版を入力するためキャリーフォワードは不要とのコメントがあった。

M.1457 のロードマップに関しては、各 SDO からの入力を元に改訂を討議した。このうち、IEEE の入力(5D/601)には P802.16m に関する記述があり、802.16m 関連の技術を M.1457 に含めるのかとの確認を日本、Ericsson が行った。また、Intel からは 3GPP 入力の LTE 3500 が Release 10 に含まれないのかの質問があった。

IEEE からは最終的に第 10 版に含めるものは次回会合までに決定するとの回答が、3GPP からは周波数関連事項は Release Independent であるとの回答がなされたが、802.16m に関して M.1457 のロードマップに記載すべきかどうかについて、ロードマップの目的自体についての議論となり、M.1457 に将来含める事項を記載するのか、各外部団体の活動情報を掲載するのかが討議された。

結論として、各外部団体に活動計画の立案方法が異なることから、M.1457 に含める技術のみを記載するのは不可能な外部団体が存在するとの認識となり、P802.16m に関しては脚注及び日本から提案の “For Information” の記載を加えることで作業文書を TEMP/321 に改訂した。

IMT-2000/IMT-Advanced の関係、ロードマップの目的・意味等に関しては、次回各国・各メンバからの入力を待って再度討議することとした。

IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、韓国提案のワークプランを討議し、ここでも第 10 回会合でのファイナライズが討議の的となった。

結論として、ワークプランのスケジュールには[ ]無しとし、議長報告に議論があったこと及びファイナライズ等の定義を含め開発プロセスに関する全体スケジュールは AH-Workplan で決定するとの記載を含めることとした。

また、エディタには Intel の Reza 氏が立候補し、選出された。なお、日本からは M.[IMT.RSPEC]が現状の Reference 掲載形式で作成するのか、M.1457 の初版のように全て記載するのかの認識統一は行う必要があるとの指摘を行った。

(6) 今後の課題：

- IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 10 版に向けての改訂に関しては、802.16m 技術が IMT-2000 側に含まれるのかをチェックするとともに、IMT-2000/IMT-Advanced の区分に関して国内で認識統一する必要がある。
- IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、スケジュール・開発プロセス・勧告案等について、次回寄書入力を行う方向で検討する。

５．２．２ SWG M.1580 & M.1581

(1) 議　　長： U. Lowenstein (独)

(2) 主要メンバ： 日本代表団（菅田）、中、韓、独、他各国（約 15 名）

(3) 入力文書： Chapter 2, Attachment 2.9 of 5D/597（前回議長報告）、5D/636（WiMAX Forum）
carried forward 文書：5D/452（WiMAX Forum）、5D/556（WiMAX Forum）

(4) 出力文書： 5D/TEMP/290r2 SWG-M.1580 & M.1581 議長報告
5D/TEMP/288r1 ITU-R 勧告 M.1580-3 の Rev.4 へ向けた作業文書
5D/TEMP/289r1 ITU-R 勧告 M.1581-3 の Rev.4 へ向けた作業文書

(5) 審 議 概 要：

(5-1) 経緯と所掌

・ RA-07（2007年10月）において、IMT-2000無線インタフェースの不要輻射に関するITU-R勧告M.1580 / M.1581のAnnex6 (OFDMA TDD WMAN)に対し、当該第6番目の新無線インタフェースと既存無線インタフェース間の共存を確保するため、出力マスク及び隣接チャネル漏洩電力比（ACLR）に関する検討が、RA-07 会合において要請された。WP5D 第三回会合（2008年10月）で終える予定の改訂作業だったが、ACLRとTest tolerance（許容誤差）の取扱いについてSDO（標準化団体）から情報収集し、当該両勧告に含める必要があり、WP5D 第四回会合（2009 年 2 月）まで改訂作業が延期され、そこで両勧告案が完成し、WP5D の承認を得た。そして、当該両勧告案（M.1580-3, M1581-3）は2009年5月25日開催のSG5会合において、一部修正を経て承認され、郵便投票にかけられた。

・ 本SWGの所掌は、両勧告の6つのAnnexにおける一般的な不要輻射特性に関する更新資料の取り込みを含め、適宜ITU-R勧告M.1580/M.1581を修正することである。現在、第4版へ向けた作業を行っている。

(5-2) 審議概要と主要結果

・ SWG-M.1580 & M.1581は、1回、1 ピリオド開催された。

・ WiMAX Forumからの入力文書は、前回、前々回からキャリーフォワードされた文書で提供されている改訂のための材料を改訂のための作業文書に含めることを提案したもので、了承された。

・ OFDMA TDD WMANのFDD Componentのマスクの情報を追加するWiMAX Forum入力のキャリーフォワードされた文書(5D/452, 5D/556)について、今会合は、再キャリーフォワードせず、その改訂提案部分を両勧告案の第4版に向けた作業文書に盛り込んだ。

今後は、この作業文書に基づき議論することとした。

・ 勧告ITU-R M.1580-4及びM.1581-4に向けたワークプラン関係では、次の通り確認した。

✧ WP5D 第8回会合 (2010/06)：Scheduled finalization of revision 4 based on provided input contributions

✧ WP5D 第9回会合 (2010/10)：Last opportunity to forward rev.4 of both recommendations to ITU-R SG5 meeting

(6) 今 後 の 課 題：

・ 国内無線設備規則との間で不整合が生じることのないように適宜対処する。

５．２．３ SWG RADIO ASPECTS

(1) 議　　長：Marc Grant(米)

(2) 主要メンバ　：日本代表団（広池、小西、森脇、石川）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、ドイツ、イタリア、フランス、ロシア、WP5D Chair 、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 全80名程度

(3) 入 力 文 書：5D/604 (WP5A), 5D/611 (ITU-T SG15), 5D/627 (仏), 5D/647 (中国), 5D/648 (日中韓), 5D/658 (AT&T, Nokia, Ericsson)

(4) 出 力 文 書：5D/TEMP/312r1v2 (ITU-T SG15に対するFemto Access Nodeに関するリエゾン),
5D/TEMP/313 (IMT.CRSのMicro Workplan),
5D/TEMP/314 (IMT.CRS Working Document),
5D/TEMP/315r1 (IMT.RADIO Working Document),
5D/TEMP/326r1 (SWG-Radio Aspects Meeting Report),
5D/TEMP/326r1 (SWG-Radio Aspects Meeting Report)

(5) 審 議 概 要：

(5-1)　所掌と経緯

本 SWG の所掌は IMT-Advanced の無線インタフェース、CRS、Femto Access Node に関わる検討である。

(5-2)　審議概要と主要結果

CRS に関しては今回 WP5A、フランス、中国から寄書入力があり、WP5A からの入力、及び WP5B 等が独自に CRS の検討を実施していることから、WP5D でも IMT に特有事項の検討は問題無いとの判断となり、DG を設けて検討を行った。

まず、WP5D で行う検討は WRC-12 の A.I 1.19 には無関係であることが確認され、作業完了は WP5A のレポート完成以降である第 11 回会合と合意し Micro Workplan を TEMP/313 に作成した。また、作業文書は最終文書が不明確なままでは作成が困難との理由で暫定的にレポートに向けた Working Document として TEMP/314 に作成した。

IMT.RADIO に関しては今回、日中韓から 5D/648、AT&T、Nokia Ericsson から 5D/658 の入力があり、討議を行った。5D/658 は記載内容に関しては IMT-Advanced 無線インタフェース選定の各ステップの記録とするとしながらも、ステップ 7 で無線インタフェースを決定した段階で SG5 において各主管庁からの承認を受けるべきとし、文書形態をレポートとして提案していた。日本は当該内容では WP5D での作業自体の承認を求めていることと同様であり、レポートには馴染まない等提案内容の確認を行ったが、共同提案元の中国、従来レポート化に否定的であった Intel を含め大多数がレポートとすることを支持したため、日本も最終的には反対はせず、文書形態を ITU-R レポートとすることに決定した。内容に関しては DG を設け、日中韓寄書 5D/648 の内容を盛り込んで作業文書を TEMP/315r1 に作成、Micro Workplan を TEMP/331r1 に作成して次回会合にキャリーフォワードした。

なお、ステップ 8 に向けた検討結果までを記載することとなっており、ステップ 7 関連は[ ]付の Place Holder 扱いのテキストだが、提案者として日本は検討すべき事項が残っている内容となっている。

ITU-T SG15 からの ITU-T 勧告 G.9971 に関するリエゾンに対しては、外部団体(3GPPs、WiMAX Forum、Femto Forum)から情報を得る方が好適であること、3GPP SA5 では Charging、OAM&P 等の要求条件を討議していること等 Femto Access Node に関する情報を提供するリエゾンを TEMP/312r1v2 に作成し、発出した。

(6)　今後の課題：

IMT.RADIO に関してステップ 6 の結果は提案者の性能値を記載し ITU-R が提案技術が最小要求条件を満たしていることを確認したとのファーマットとなっており、ステップ 7 関連は提案者としてチェックすべき事項が残っているため、次回までに検討を行い、必要であれば寄書入力を行う。

５．２．４　SWG EVALUATION

(1)　議　　長：Hu WANG (中国)

(2)　主要メンバ　：日本代表団（坂中、佐藤(孝)、石川、本多、小西、田中、鬼頭、他）、中村(3GPP)、中国、韓国、インド、米国、カナダ、IEEE、Intel、他　全 40 名程度

(3)　入 力 文 書：5D/630 (日中韓), 674 (Convener of CG), 645 (中国), 660 (BR-WINNER+) , 650 (BR-ChEG), 651 (BR-WFEG) , 652 (BR-TTA), 653 (BR-TTA), 657 (BR-TCOE India), 661 (BR-WINNER+), 662 (BR-REG), 667 (BR-WCAI), 668 (BR-CEG), 669 (BR-TR45) , 670 (ATIS) , 671 (ATIS)

(4)　出 力 文 書：5D/TEMP/294 (評価グループへのリエゾン文書のテキスト草案),
5D/TEMP/325 (SWG-Evaluation 議長報告)

(5)　審 議 概 要：

(5-1)　所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced の無線インタフェースの評価に関する技術的な課題を解決することである。今会合では、評価グループから提出された暫定／中間評価レポートのレビュー、評価グループへのリエゾン文

書の技術部分に関する草案の策定などを行った。

(5-2)　審議概要と主要結果

今回会合では、10 の評価グループから、IEEE 技術と 3GPP 技術を異なる寄書で入力した評価グループも存在したため、12 の暫定／中間評価レポートが入力され、これらのレビューを行った。ほとんどの暫定評価レポートは、評価手法として、レポート ITU-R M.2135-1 を採用しており、ITU の要求条件を満足するという暫定結果となっていた。しかしながら、カナダ評価グループ(CEG)の評価レポート(5D/668)において、3GPP 技術のピーク周波数利用効率が ITU の要求条件を若干下回るのとの暫定結果が出されており、確認が行われた。インテルより、レポート ITU-R M.2134 におけるピーク周波数利用効率の定義には、レイヤ 1 のオーバヘッドを考慮することとなっているが、レポート ITU-R M.2135 の評価手法ではレイヤ 1、2 を考慮することとなっており、矛盾が生じており、レポート ITU-R M.2134 の定義を採用すべきとの指摘がなされ、特段の反対意見はなく承認された。この内容について、評価グループへのリエゾン文書におけるテキストを作成するとともに、レポート ITU-R M.2135-1 に反映することとなった。また TCOE インドの 3GPP 技術の VoIP 容量の評価において、HARQ がオプションとなっていることに対して、3GPP より、評価においては HARQ を適用したモデルでの評価が推奨されるとの回答があった。最終的に 3GPP 技術の VoIP 容量の評価は HARQ を適応して行うことが、了承された。

付加的な評価手法として、中国からアンテナパターン、インドから Open area rural 環境が入力された。アンテナパターンについては情報として ITU Web に掲載されることとなった。Open area rural 環境については、インドから、発展途上国においてはレポート ITU-R M.2135 の高速移動を前提としたルーラル環境よりも、低速移動のユーザを対象とした、半径の大きなセルというモデルが実態に即しており、各評価グループはこのモデルによる評価を考慮することが提案された。SWG 議長より、付加的な評価手法を他の評価グループが評価することは必須でないとの説明が行われ、インテルよりこの環境の評価はマンダトリではないとの記述を加える提案が行われたが、インド、米国の反対により、マンダトリでないとの記述は行われないこととなった。ただし、これはこの環境がマンダトリとなったということではない。

(6)　今後の課題：

次回会合においては、外部評価機関からの最終評価レポートのレビュー、ADV 化が行われる予定である。

５．２．５　SWG COORDINATION

(1)　議　　長：本多 (日本)

(2)　主要メンバ：日本代表団（坂中団長、佐藤（孝）、佐藤（一）、石川、鬼頭、林、田中、森脇、吉井、広池、木幡、他）、中村（ドコモ）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson、AT&T 他　全約 50 名程度

(3)　入力文書：5D/623(IEEE), 5D/628(BR – ARIB), 5D/630(日本、中国、韓国), 5D/629 (3GPP), 5D/650(BR - ChEG), 5D/651(WiMAX Forum), 5D/652, 5D/653(BR – TTA), 5D/657(BR – TCOE India), 5D/661(BR – WINNER+), 5D/662(BR – REG), 5D/667(BR – WCAI), 5D/668(BR – CEG), 5D/669(BR – TR-45), 5D/670, 5D/671 (ATIS), 674 (IMT-Advanced コレスポンデンス・グループ・コンビナ)

(4)　出力文書：5D/TEMP/316Rev.1 (評価グループへのリエゾン),
5D/TEMP/317 (SWG 議長報告)

(5)　審議概要：

(5-1)　所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced 無線インタフェース技術開発プロセス（提案・評価プロセス）のステップ 3（提案の受領及び受領確認）、ステップ 5（外部評価グループ活動のレビューと調整）及びステップ 7（評価結果の考慮、コンセンサス・ビルディング及び決定）においてコーディネーションを行う WP5D のフォーカル・ポイントとなることである。

(5-2)　審議概要と主要結果

本 SWG 会合は今会期中に 4 回開催された。今会合では、IMT-Advanced 無線インタフェース技術提案の暫定／中間評価レポートが入力されたため、主にこれらを審議した。WG Technology Aspects で作業方法として、5D/630 に基づくことが合意済みであり、その作業項目を SWG EVALUTION と協力して行った。

まず第 6 回 WP5D 会合後の評価に関する活動を見直した。これらは、IEEE による評価コーディネーション会合(5D/623)及び 3GPP による評価ワークショップ(5D/629)である。また IMT-Advanced 評価のコレスポンデンス・グループ活動についても報告が行われた(5D/674)。この結果、評価グループには評価を行うための技術情報が十分もたらされており、WP5D として特別の追加作業は必要がないことの認識に至った。また 3GPP 及び IEEE が 2 回目のワークショップ及びコーディネーション会合を 2010 年 5 月に計画していることを確認した。またコレスポンデンス・グループ活動は 2010 年 6 月までこのまま継続することを合意した。

つぎに、評価グループからの暫定／中間評価レポートのチェックを行った。これらは、5D/650(ChEG)、5D/651(WiMAX Forum)、5D/652、5D/653(TTA)、5D/657(TCOE India)、5D/661(WINNER+)、5D/662(REG)、5D/667(WCAI)、5D/668(CEG)、5D/669(TR-45)、5D/670 及び 5D/671 (ATIS)である。技術的な部分については SWG EVALUTION の所掌であるので、手続的な部分について確認を行った。この結果各評価グループの活動は順調であり、2010 年 6 月に予定通り最終評価レポートの提出が期待できるとの認識で一致した。

次に全評価グループに対するリエゾンの草案作成を行った。まずエリエゾンには、今会合での評価レポートに関する議論のまとめ、暫定／中間評価レポートへのコメント及びフィードバック、2010 年 6 月の評価レポート締め切りの再周知及びコレスポンデンス･グループ活動への参加要請を含めることを合意した。SWG 議長から「暫定／中間評価レポートへのコメント及びフィードバック」の部分を除くリエゾンの草案が示された。特にコレスポンデンス･グループ活動に参加要請する部分で、評価レポート提出の締め切り(6 月 2 日)直前の活動について議論があり、5 月 26 日を質疑応答の期限とする文章を含めることとなった。その後 SWG EVALUATION から暫定／中間評価レポートへのコメント及びフィードバックについて入力(5D/TEMP/294)があり、この内容を取り込んで、リエゾンを完成した(5D/TEMP/516)。

コレスポンデンス･グループ活動に関して、セクタメンバから、各評価グループ及び提案者の代表者（コンタクト）の情報をコレスポンデンス･グループ上で開示するほうがよいとの指摘があり、SWG 議長及び ITU-R 事務局がその情報を準備した（会合後、代表者情報はコレスポンデンス･グループ上に掲載されている）。

ITU-R が行う評価グループ向けコーディネーション会合は、第 7 回と第 8 回会合の間に開催される可能性もあったが、提案者が行うワークショップ及びコーディネーション会合が十分機能しているので、ITU-R としては開催しないことを合意した。

なお TCOE India は、自身が提案している追加評価手法（オープン・エリア・ルーラル・モデルによる評価）について、独自のコレスポンデンス･グループを設立すること及び第 8 回会合以降もこの件ににについて議論を続けることを要望した。この追加評価手法は、既存のコレスポンデンス･グループで議論することとなった。

(6) 今 後 の 課 題：

次回第 8 回会合には、評価グループの最終評価レポートの入力が期待される。これら評価レポートの扱い、本 SWG 及び関連 SWG も含めたコンセンサス・ビルディングの方法について検討する必要がある。

５．３　WG SPECTRUM ASPECTS

(1)　議　　長：Alan Jamieson（ニュージーランド）

(2)　主要メンバ：米、加、英、仏、独、露、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、中、韓、印、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、ｸｱﾙｺﾑ、ｱﾙｶﾃﾙﾙｰｾﾝﾄ、ｴﾘｸｿﾝ、ﾉｷｱ、ｲﾝﾃﾙ、UMTS-F、WiMAX-F、日本代表団（坂中、橋本、小松、広池、菅田、北、新）、全80名程度

(3)　入力文書：Doc.5D/

①全般：597（第6回会合議長報告、Chapter 2、Chapter 5）

②WG Spectrum Aspects：

- IMT.700関連： 610（仏、CEPT）、616（米）、632（日）
- UHF帯共用検討： 617（米）

②SWG Sharing Studies：

- 605（WP5C）、606（WP5A）、607（WP5A）、608（WP6A）、609（JTG5-6）、618（US）、624（仏）、625（仏）、626（仏）、633（日）、635（日）、639（WiMAX-F）、641（ｸｱﾙｺﾑ）、644（ｱﾙｶﾃﾙﾙｰｾﾝﾄ他）、646（中）、649（中）、664（韓）、672（WP1A）、673（WP1A）
- キャリーフォワード文書422(Rev.1)（独）、449（WiMAX-F）、450（WiMAX-F）

③SWG Frequency Arrangements：

- 619（米）、622（加）、631（日）、638（WiMAX-F）、642（UMTS-F）、643（UMTS-F）、654（独）、655（独）、656（ｴﾘｸｿﾝ）、659（UAE）、665（ｺﾛﾝﾋﾞｱ）、666（ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）

(4)　出力文書：Doc.5D/TEMP

295　698-960MHz帯の周波数アレンジメントのための作業文書[IMT.700]

299　周波数アレンジメント勧告M.1036改訂に係る作業計画

300　勧告M.1036改訂に向けた作業文書

301　SWG Frequency Arrangements議長報告

302　3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案[IMT Mitigation]作成に向けた作業文書

303　新勧告草案[IMT Mitigation]に係るWP4Aへのリエゾン文書

304　新勧告草案[IMT Mitigation]に係る外部団体へのリエゾン文書

305　IMTを含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案草案[ANT ISO]作成に向けた作業文書

306　新レポート案草案[ANT ISO]に係るWP1A及び5Aへのリエゾン文書

307　IMTの共用検討パラメータに係るJTG5-6へのリエゾン文書

308　UHF帯における共用検討の作業計画

309　UHF帯における共用検討に係るWP6Aへのリエゾン文書

310　IMT-2000共用検討パラメータに関するレポートM.2039改訂の作業文書

311　レポートM.2039改訂に係る外部団体へのリエゾン文書

318　WRC-12議題1.5に係るWP5Cへのリエゾン文書

319　SWG Sharing Studiesの作業計画

320　SWG Sharing Studies議長報告

327　WG Spectrum Aspects議長報告

(5) 審議概要：

(5-1)　所掌と経緯

WG Spectrum Aspects(WG-SPEC)は、IMT の周波数全般に関連する事項についての検討を行うことを所掌とし、周波数アレンジメント勧告の改訂、共用検討関連の検討、リエゾン文書の作成について議論を行った。

(5-2)　体制

第 1 回 WG 会合において、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の 2 つの SWG を設置することが承認された。前回 WP5D 会合に引き続き、SWG Sharing Studies は M. Kraemer 氏（独）が議長、SWG-Frequency Arrangements は Y. Zhu 氏（中）、及び A. Sanders 女史（米）が共同議長として、それぞれ担当することが承認された。SWG の構成は以下の通り。

SWG 名	SWG 議長・副議長	主なトピック
SWG-Sharing Studies	議長 M. Kraemer氏（独）	共用検討
SWG-Frequency Arrangements	共同議長 Y. Zhu氏（中） 副議長 A. Sanders女史（米）	勧告M.1036-3の改訂

また、文書 6D/617（米）からの 698-960MHz 帯における IMT システムと他無線業務を含む他システムとの両立性の検討を実施する提案がきっかけとして、JTG5-6 との作業重複を避けるため休止していた決議 224（WRC-07 改）に基づく UHF 帯の共用検討の進め方について検討を行うアドホック会合として AH Spectrum が設置された。AH 議長は、WG Spectrum Aspects 議長の A. Jamieson 氏（ニュージーランド）が担当することとした。

(5-3)　審議概要と主要結果

第 1 回会合では、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の 2 つの SWG の設置を承認し、SWG に割り振られた文書は各 SWG で審議することにした。また、以下の 2 つの項目について議論が行われた。

(1) 698-960MHz帯の周波数アレンジメントのための作業文書[IMT.700]の取り扱い

作業文書[IMT.700]については、前回 WP5D 会合において、その取り扱い（作業の継続、中止等）の明確化を求める意見が出されており、今回の会合にて、文書 5D/610（仏、CEPT）、616（米）、632（日）に基づいて議論が行われた。仏（CEPT）や米からは、作業文書[IMT.700]の必要性や作業完了後の取り扱いに対する疑問が示され、作業の中止をする提案が行われた。一方、作業文書[IMT.700]の作成の提案元であるカナダからは、CEPT や米国では当該周波数におけるアレンジメントが既に決定しているが、その他の国ではまだ策定が行われておらず、単なる作業文書として作業を継続することを主張するとともに、日本からも勧告 M.1036 の作業文書に含まれていない内容が作業文書[IMT.700]にもあるとして、カナダの考えを支持した。最終的に WG 議長より、作業文書[IMT.700]を、勧告 M.1036 の改訂作業を補助するための情報を収集する位置づけとする、最終的な取り扱いは勧告 M.1036 改訂案が完成した時点で判断するとの方向性が示され、合意した。以上の議論を反映するための作業文書の改訂を、J.Costa 氏（カナダ）が対応することとした。

(2) UHF帯の共用検討

文書 6D/617（米）に基づいて、698-960MHz 帯における IMT システムと他無線業務を含む他システムとの両立性検討を開始する提案が行われた。本提案に対し、仏からは、JTG5-6 との作業の重複を避けるため当該周波数帯で共用検討をしないことになったが、現時点でどうすべきか再度検討すべきとコメントがあった。一方、ロシアからは米国提案の背景を確認する質問があり、米国からは詳細を議論してスコープ等を決めるべきと回答された。最終的に、WG 議長より、AH グループを設置し、JTG5-6 や WP6A での活動を考慮して UHF 帯における共用検討の作業計画の詳細を議論することが提案され、その進め方で合意した。

第 2 回会合（最終）では、各 SWG、及び AH Spectrum の審議結果について議論が行われた。まず、AH Spectrum の議論の結果として、UHF 帯の共用検討に関わる作業計画、及び WP6A へのリエゾン文書を作成したことが紹介された。また、各 SWG 議長からの報告（SWG Sharing Studies : TEMP/277、SWG Frequency Arrangements : TEMP/275）が行われた。以上の報告について、特段質疑はなかった。

引き続き、以下の出力文書の審議が行われた。なお、SWG Frequency Arrangements からは審議すべき出力文書はなかった。

＜審議された出力文書＞

TEMP/308　UHF帯における共用検討の作業計画

- 特段コメントなく合意され、WP5D 議長報告の 2 章に添付することにした。
- 今後の UHF 帯における共用検討の議論に際し、MARTI Laura 女史（仏）が DG 議長に任命されるとともに、下記 TEMP/309 の WP6A へのリエゾン文書のコンタクトパーソンに任命された。

TEMP/309　UHF帯における共用検討に係るWP6Aへのリエゾン文書

- WG 議長より、WP5A, 5B, 5C へも情報提供することについて確認を求める説明があったが、特段コメントはなかった。仏より、一部エディトリアルな修正提案が行われ、その修正を反映して WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/303　新勧告草案[IMT Mitigation]に係るWP4Aへのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/304　新勧告草案[IMT Mitigation]に係る外部団体へのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/306　新レポート案草案[ANT ISO]に係るWP1A及び 5Aへのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/307　IMTの共用検討パラメータに係るJTG5-6 へのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/311　レポートM.2039 改訂に係る外部団体へのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/318　WRC-12 議題 1.5 に係るWP5Cへのリエゾン文書

- 特段コメントなく合意され、WP5D Plenary に諮ることにした。

TEMP/319　SWG Sharing Studiesの作業計画

- 特段コメントなく合意され、WP5D 議長報告の 2 章に添付することにした。

以上の出力文書の審議に加えて、次回会合へキャリーフォワードする文書の確認が行われた。

- SWG Sharing Studies　5D/617、TEMP/302、305、310
- SWG Frequency Arrangements　5D/619、622、638、643、656、659、665、TEMP/300

・　作業文書[IMT.700]　TEMP/295

なお、TEMP/310（レポート M.2039 改訂の作業文書）については、SWG Sharing Studies 議長より、一部エディトリアルな修正（SWG Sharing Studies における、インテルの指摘による First group, Second Group 等の削除）をすることが説明された。また、仏からは勧告 M.1036 改訂に関して、フレキシビリティの取り扱いに議論が集中し、検討が進んでいないことに対して懸念を示すコメントが述べられた。WG 議長からは、ITU-R として周波数アレンジメントのような周波数の使い方のガイダンスを示すことが重要であり、仏と同じような懸念を持っていると説明が行われるとともに、次回の WP5D 会合でも議論が進まないようであれば、フレキシビリティの議論を切り離すなどの措置が必要かもしれないとのコメントが述べられた。

以上で、WG Spectrum Aspects の審議を終了した。

(6)　今後の課題：

・　周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。

(1)　勧告 M.1036-3 の改訂作業については、作業計画上、残り 3 回の会合で改訂案を完成させる必要があるため、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある。

(2)　作業文書[IMT.700]は、検討を継続することで合意されたが、作業文書の最終的な取り扱いについては否定的な意見もあり、同作業文書に含まれる日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数アレンジメントの考え方）の扱いをどのようにするべきか、検討を行っていく必要がある。

・　共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる拙速な結論が導かれないよう、適切に対処していく必要がある。

(1)　新勧告案[IMT Mitigation]の作成、レポート M.2039 の改訂、新レポート案[ANT ISO]の作成の作業は、残り 2 回の会合での完了予定であり、必要に応じて、検討を促進する対処を検討していく必要がある。

(2)　UHF 帯における共用検討は、今後の議論の動向を注視するとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、対処を検討していく必要がある。

５．３．１　SWG SHARING STUDIES

(1)　議　　長：M. Kraemer（独）

(2)　主 要 メ ン バ：米、加、英、独、仏、露、中、韓、印、豪、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、UAE、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、ｺﾛﾝﾋﾞｱ、他各国、UMTS-F、WiMAX-F、EBU、FreeTV、日本代表団（坂中、広池、新、菅田、北、鬼頭、木幡、小松）、約 70 名程度

(3)　入 力 文 書：5D/422R1 (独), 449,450 (WiMAX Forum),
5D/605 (WP 5C, 606, 607 (WP 5A), 608 (WP6A), 609 (JTG5-6), 618 (米), 624, 625, 626 (France), 633, 635(Japan), 639 (WiMAX Forum), 641 (Qualcomm), 646, 649 (China), 644 (Alcatel-Lucent, Qualcomm, etc), 664 (Korea), 673 (WP 1A)

(4)　出 力 文 書：Doc.5D/TEMP

291R1 AH VOC への内部リエゾン（レポート M.2113-1、M.2146-1、M.2039-1 より抽出した用語集）

302　3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書

303　同勧告草案に関する WP4A へのリエゾン文書

304　同勧告草案に関する外部団体へのリエゾン文書

305　IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]の作業文書

306　同レポート案に関する WP1A 及び 5A へのリエゾン文書

307　UHF 帯の共用検討パラメータに関する JTG5-6 へのリエゾン文書

310　IMT の共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂の作業文書

311　同レポートの改訂に関する外部団体へのリエゾン文書

318　WRC-12 議題 1.5（ENG）に関する WP5C へのリエゾン文書

319　SWG Sharing Studies に関する作業計画（IMT Mitigation、ANT ISO、M.2039 を含む）

320　SWG Sharing Studies の議長報告

(5)　審 議 概 要：

(5-1)　所掌と経緯

本 SWG は、IMT-2000、IMT-Advanced の周波数帯における共用検討、共用検討に用いるパラメータを主な所掌とし、WP5D 第 2 回会合から M. Kraemer 氏（独）が SWG 議長を務めている。

今会合では、WRC-12 議題 1.17 の UHF 帯 IMT パラメータに関する JTG5-6 へのリエゾン文書、3.4-3.6GHz 帯の共用改善技術の新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書と WP4A へのリエゾン文書、基地局併設等の共用に関する新レポート案の作業文書、その他各種リエゾン文書への回答等についての審議が行われた。

(5-2)　体制

第 1 回 SWG 会合において、下表の通り 3 つのドラフティングループを設置することと、DG 議長が承認された。

名称	議長	内容
DG UHF Parameters /Report M.2039	J.P. Millet 氏（仏）	JTG5-6からのWRC-12議題1.17の検討に関わるIMTパラメータの質問に関する回答のリエゾン文書、共用検討パラメータに係るレポートM.2039の改訂作業
DG IMT MITIGATION	J. Lewis 氏（サムソン）	3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案の作業文書、及びリエゾン文書への対応
DG ANTENNA ISOLATION	S. Magnasson 氏（エリクソン）	IMTを含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案の作業文書

(5-3)　審議概要と主要結果

第 1 回会合では、SWG に割り当てられた文書の紹介と質疑が行われ、上記 3 つのドラフティングループの設立が合意され、DG 議長が承認された。主な審議内容と結果は以下の通りである。

①JTG5-6 のためのUHFパラメータ（入力文書：5D/609, 626, 644）

- 5D/609(JTG5-6)：EBU が説明し、①LTE における信号の時間変動、②基地局の EIRP とセル半径の関係式の提供を求めるもの、①は遅くてもよいが、②は急ぐので今会合で回答してほしい、JTG5-6 だけでなく WP6A でも使用すると説明した。
- 5D/626(仏)：JTG5-6 の要求に応えるためのリエゾンの材料として、JTG5-6 の質問のうち、基地局 EIRP の大きさと 3 セクタ構成のセル半径の大きさの関係に関する情報についての回答案を説明した。基地局 EIRP が 30～60dBm の範囲において、レポート ITU-R M.2028 に記載の modified Hata モデルを用いて、伝搬損を計算してセル半径の大きさの関係を導出しているが、セル半径はオペレータの戦略に依存し全てのエリアで正確な数値を出すのは困難とした。
- 5D/644（Alcatel-Lucent, Qualcomm, etc）：Qualcomm が JTG5-6 へのリエゾンの材料となるものとして、

送信電力とセル半径の関係を求める手法、伝播モデルの勧告やレポートの情報、W-CDMA の Uplink についての計算結果を説明した。また、JTG5-6 の要求は難しいものであるとコメントした。

- ロシアは、5D/626 は Downlink、5D/644 は Uplink について計算しており互いに補完するものとして、これらを支持した。
- ドラフティンググループで JTG5-6 への回答を用意することとし、DG 議長は J.P. Millet 氏（仏）が担当することになった。

②IMT共用検討用パラメータのレポートM.2039 関連（入力文書：5D/624, 635）

- 5D/624（仏）: M.2039 の改訂に当たり、IMT-Advanced を含まず IMT-2000 にフォーカスすべき、周波数を

  第 1 グループ： 1 800 MHz, 2 GHz, 2.3 GHz, 2.5 GHz.

  第 2 グループ： 698-960 MHz（698-806MHz 帯, 790-862MHz 帯, 900 MHz 帯を含む）

  第 3 グループ：450-470 MHz（含むべきだが、これまで提案はない。）

  の 3 つのグループに分類すべきとし、これらの考え方に基づく作業文書の修正案を提案した。
- 米が「本文書では 450MHz の入力文書がないとしているが、WP8F の 450MHz 共用検討レポート作成の際に入力がある」と指摘し、仏より「M.2039 にフォーカスした入力文書は無かったが、関連パラメータを取り込むことは問題ない」と回答した。Intel が、「グループ 1 の周波数で、過去の共用検討では、2GHz と 2.5GHz で違う特性を用いていたが、外部団体の意見を踏まえてグルーピングの仕方を変更することは可能か、仏は提案のグルーピングにこだわっているのか」と質問し、仏は「グルーピングの仕方については、外部団体の意見を聞く必要がある」と回答した。
- 5D/635（日）: 周波数のグループ化、IMT-Advanced を含むべきかどうかを議論する際に考慮すべき事項を提案したが、特段のコメントは無かった。
- 全ての入力文書を考慮し、JTG5-6 のための UHF パラメータを扱うドラフティンググループで、M.2039 の改訂に向けた作業文書の更新も行うこととされた。

③新勧告草案 IMT Mitigation]関連（入力文書：5D/625, 633, 664）

- 5D/625（仏）: 新勧告の作業文書を提案し、SG4 の新勧告 S.「IMT-PFD」(S.1856)と WP8F のレポート M.2109 をベースにしたものと説明した。米から、例えば 4.2GHz までとか周波数の拡張について質問され、仏は「現在は作業計画の記載に従って 3.4-3.6GHz に限定している」と回答した。John Lewis 氏（サムソン）より、WP4A での BWA と FSS の共用検討では、3.4-4.2GHz 帯が対象となっていることを紹介した。Intel よりスケジュールについて質問があり、SWG 議長から「現在のワークプランでは 2010 年末とされているが現在の想定に過ぎない（変更もあり得る）」と回答し、仏からも「ワークプランからコピーしただけ」と説明した。
- 5D/633（日）: 新勧告作成に先立ち、スコープや基本的な考え方を議論すること、作業文書を提案するもので、周波数範囲は 3.4-3.6GHz 帯に限定しないものと説明した。米より周波数範囲について広げるとするとどのような範囲にするのかについての質問があり、日本より「干渉軽減技術は周波数に依存しないので周波数を限定する必要がないと考えているが、本 SWG、WP5D での議論に依存する」と回答した。
- SWG 議長より、ドラフティンググループに周波数範囲についてガイダンスを示す必要があるとされた。
- Intel より周波数範囲の拡張について外部団体にリエゾンを出すのか質問され、SWG 議長から「回答は期待できないが、必要なら出すことも可能」と回答された。
- ロシアは、新たな勧告は必要なく既存の勧告（SG4 の S.1846）で十分とコメントした。
- 5D/664（韓）: 干渉軽減技術として CRS を検討することを提案したが、特段のコメントは無かった。
- 全ての入力文書を考慮し、ドラフティンググループで作業文書、ワークプランを検討することとし、DG 議長は John Lewis 氏（サムソン）が担当することになった。SWG 議長より、周波数の一般化あるいは周波

数の拡大については「干渉軽減技術は他の周波数にも適用できる」のように注意深くテキストを検討するようアドバイスされた。

④併設時のアンテナアイソレーション関連（入力文書：5D/606, 639, 641, 646, 649, 673）

- 5D/606 (WP 5A)：J. Costa 氏(WP5A 議長)が、ITU-T SG5WP2 から WP5A へのリエゾンに対する WP5A からの応答のリエゾンと説明し、ノーコメントでノートされた。
- 5D/639 (WiMAX Forum)：2.5GHz 帯のアイソレーション例を追加する作業文書の修正提案でノーコメント。
- 5D/641 (Qualcomm)：主にメソドロジー部分を書き換える作業文書の修正提案でノーコメント。
- 5D/646 (China)：主にメソドロジー部分の提案するもの（修正履歴なし）。Intel が本文書の提案内容と次の 5D/649 で提案するスコープの内容が整合しないと指摘し、Ericsson も前回の WP5D 会合でアンテナ間のアイソレーションにフォーカスすることが合意されたと指摘した。Qualcomm も Ericsson を支持し、スコープを拡大するのか、違う方法を採るのか質問した。SWG 議長より、DG で全ての提案を考慮して、スコープを変えるのか維持するのか議論するよう求めた。
- 5D/649 (China)：スコープを「併設あるいは隣接する基地局間のアイソレーションを推定するための手法、及び、分析結果を示す」とするもので、上記で既に議論済みとし、DG で扱うとされた。
- 5D/673 (WP 1A)：本作業に関し、勧告 SM.337-6 が関連することを通知するもので、DG で適宜扱うとされた。
- ドラフティンググループで作業文書の更新を行うこととし、DG 議長は Sverker Magnasson 氏（エリクソン）が担当することになった。

⑤WRC-12 議題 1.5（ENG）関連（入力文書：5D/605, 618）

- 5D/605 (WP 5C)：ENG 候補周波数帯と既存業務との共用問題に関するアドバイスを求めるもの。
- 5D/618 (United States)：WP5C からのリエゾンに対し、IMT に特定された周波数が含まれていると WP5D の懸念を示すリエゾンを送付する提案で、リエゾン文書案が添付されているもの。
- SWG 議長より、米提案のリエゾン文書案を WP5C へのリエゾンバックのベースとし、本内容と異なる見解を持つメンバは、直接米にコメントするよう求めた。

⑥その他のリエゾン文書（入力文書：5D/607, 608, 682）

- 5D/607 (WP 5A)：WRC-12 議題 1.25 に関する、WP 5A から WP 4C へのリエゾンのコピーで、情報としてノートされた。
- 5D/608 (WP 6A)：1GHz 未満の周波数に関する WP5D の活動の成果を求めるもので、SWG 議長より、明日の AH-Spectrum（UHF 帯の共用検討）の議論を待つとされた。
- 5D/672 (WP 1A)：WRC-12 議題 1.22（SRD）の CPM テキスト完成スケジュールを知らせるもので、現時点で特段のアクションの必要は無い（何かあれば来週の SWG までに SWG 議長に知らせること）とし、ノートされた。

⑦キャリーフォワード文書（異なる復信方式に関する共用検討）（入力文書：5D/422R1, 449, 450)

- SWG 議長より、新たな入力を待つため何回かキャリーフォワードされたが今会合でも入力文書が無かった、何度もキャリーフォワードすることは得策ではなく、当該文書は現研究期間で電子的に参照可能であり、議論が必要な場合にはそれらの文書を参照して議論を再開するとした。以上の経緯を SWG 議長報告に記載することが提案され、合意された。

⑧その他

- SWG 議長より、AH-VOC の件で、新略語、定義などを、昨年作成した M.2113(2.5GHz 帯共用検討レポート)等から抜粋する作業があるとし、ボランティアを募ったが誰も返答しなかったため、議長が作業を行うとした。また、各 DG 議長には今後作業文書を作成していく中で、略語の章を設けるようにと要請があっ

た。

第 2 回会合では、各 DG からの進捗報告を受けると共に、SWG Sharing Studies からの出力文書案（Sharepoint 内の作業文書：SWG Sharing 1～10）の審議が行われた。主な審議内容と結果は以下の通りである。

①JTG 5-6 へのリエゾン文書 (SWG Sharing 1 -> 5D/TEMP/307)

・ DG 議長から説明され、5 章で Editorial な修正、コンタクトを J.P. Millet 氏として WG-SPEC に諮ることが承認された。

②レポートM.2039 の改訂の作業文書 (SWG Sharing 2 -> 5D/TEMP/310)

・ 内容の議論はせず、単に議長報告に添付して次回にさらなる更新を行うことが承認された。

③同レポートに関する外部団体へのリエゾン文書 (SWG Sharing 3 -> 5D/TEMP/311)

・ 特段の意見無く WG-SPEC に諮ることが承認された。

④IMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案 [IMT Mitigation]の作業文書 (SWG Sharing 4 -> 5D/TEMP/302)

・ DG 議長より、DG 会合後に 2.3 Use of Cognitive Radio System の部分に韓国からテキスト（CRS はシステム間の干渉を軽減するプロトコルまたは他の手段を有する。CRS は、当該地域の規則に関する情報を得るための集中データベースまたは他の局を思量するかもしれない、といった内容）の提案があったとし、SWG 議長がスクリーンに表示してコメントを求めた。韓国は、入力文書のアイディアに沿ったテキストで [ ] 付きで入れて欲しいと要求したが、米はこのタイミングで追加することに反対、仏は追加テキストの内容は干渉軽減技術でないとし、テキスト追加は合意されなかった。

・ DG 議長より、2.1 のセクションタイトルが[Dynamic spectrum allocation]と [Flexible spectrum access]が併記されていることを説明した。米が周波数アレンジメントの議論では「allocation」は特別な意味を持つと前者に懸念を示し、DG 議長は後者の「Flexible」にも問題あるとし、Peter 氏（所属は不明）の提案で、[Dynamic spectrum access]で合意された。

・ 上記修正を行い、議長報告に添付してキャリーフォワードするよう WG-SPEC に諮ることが合意された。

⑤同作業文書に関するWP 4Aへのリエゾン文書 (SWG Sharing 5 -> 5D/TEMP/303)

・ 日本の指摘で、文書を参照する名称 M.[IMT.MITIGATE]を M.[IMT.MITIGATION]とすることで、WG-SPEC に諮ることが承認された。

・ DG 議長の指摘で WP4A の次回スケジュール（3/23～）の関係で、作業文書における Reference は議長報告の Attachment でなく WP5D の TEMP 文書なるだろうと指摘された。

⑥同作業文書に関する外部団体へのリエゾン文書 (SWG Sharing 6 -> 5D/TEMP/304)

・ 文書の参照名称に WP4A へのリエゾン文書と同様な修正を行うことで、WG-SPEC に諮ることが承認された。

⑦基地局併設時等の共用に関する新レポート草案[ANT.ISO]の作業文書(SWG Sharing 7 -> 5D/TEMP/305)

・ Intel より、第 1 回 DG で、「ある文書の提案が作業文書のスコープ外の共用検討を含むと議論になったが、最終的にどうなったのか」と質問し、DG 議長が第 2 回 DG で第 4 章を幾つかの例に限定し ANNEX とする（NOTE を記述する）ことで合意されたと説明した。さらに、DG 会合後の当該 NOTE の修正として、「スプリアス特性、混変調特性などによる干渉計算の一般的な記述は本文（Mainbody）に残す」との修正案が示され、特段のコメント無く、合意された。

・ 上記修正を行い、議長報告に添付してキャリーフォワードするよう WG-SPEC に諮ることが承認された。

⑧同レポートの作業に関するWP1A及び 5Aへのリエゾン文書（SWG Sharing 8 -> 5D/TEMP/306)

・ タイトル中の Copy のあて先の「ITU-T SG5 WP2」の、WP2 を削除することで、WG-SPEC に諮ることが承認された。

⑨WRC-12 議題 1.5（ENG）に関するWP5Cへのリエゾン文書 (SWG Sharing 9 -> 5D/TEMP/318)

- SWG 議長より、米のリエゾン文書案（5D/618 の Attachment）にオフラインでロシアからの IMT に割り当てられている表の追加提案、FreeTV（豪）からのコメントを反映したもので、DG で議論していないものと説明された。
- ①共用検討の必要性、②各候補帯域で使用している国の数の詳細情報、③IMT システムのユビキタス性、④結論の各部分で、米国案に FreeTV が修正を加えたテキストをレビューし、文言修正や米案に戻すなど議論の末、結論を「同一あるいは隣接周波数で ENG と IMT が共用可能との検討結果が出るまでは IMT バンドを検討すべきでない」とする主旨で合意し、WG-SPEC に諮ることが承認された。
- さらに、SWG 議長が、「tuning range」という用語が曖昧だとし、「WP5D の考える tuning range の定義」をスクリーンに示し、一部変更のうえ、リエゾンに追加することが承認された。

⑩ワークプラン (SWG Sharing 10 -> 5D/TEMP/319)

- M.2039 の改訂及び IMT.Mitigation のワークプランの変更は無いとされ、ANT.ISOLATION のワークプランが示され、第 8 回会合の開催地を中国とすることで、承認された。
- 日本より、IMT.Mitigation の作業文書のタイトルやスコープが変わったことにより、IMT.Mitigation のワークプランを修正する必要があると指摘し、前回の議長報告のワークプランのタイトルを作業文書のタイトルに合わせて修正することが合意された。Focus for scope and work の内容は作業文書のスコープに合わせる必要は無いとし、現状のままでよいとされた。

⑪その他

1)AH VOC へのリエゾン文書 （5D/TEMP/291 -> Rev1）

- SWG 議長より、AH-VOC の要請により、レポート M.2113-1、M.2146-1、M.2039-1 より用語を抽出したものとして説明され、M.2039-1 の改定作業の作業文書の用語の部分は完成度が高い（ｍａｔｕｒｅ）とし、M.2039-1 の用語、IMT-2000 の一般名称は、作業文書のものに置き換え、Revision-1 として AH-VOC に提供することが合意された。

2)Intel より、M.2039-1 の改定作業文書の Introduction 部、周波数のグルーピングの部分で、First group, second group, Third Group, Fourth group の文字を Editorial に削除することを提案し合意された。

3)WG-SPEC 議長が、キャリーフォワードする入力文書の有無を質問し、無いことが確認された。

(6) 今後の課題：

- IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案 [IMT Mitigation]の作成、共用検討用 IMT-2000 パラメータに関するレポート M.2039 の改訂作業、基地局併設時等の共用に関する新レポート草案[ANT.ISO]の作成において、完成スケジュールを考慮しながら、適切な内容となるよう、必要に応じて対処することが必要である。
- また、UHF 帯における共用検討のワークプランが AH-SPECTRUM で議論され、今後検討が本格化することが想定されるが、我が国では当該周波数の一部を IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、今後の動向を注視し、適切な対応を検討する必要がある。

５．３．１．１ DG UHF Parameters & M.2039

(1) 議　　長： J.P. Millet(仏)

(2) 主要メンバ： 米、加、英、独、仏、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、ニュージーランド、他各国、Ericsson、Qualcomm、Intel、WiMAX-F、EBU、ZDF、日本代表団（新、小松、菅田、北）、全 30 名程度

(3) 入 力 文 書： Doc. 5D/609(JTG 5-6)、624(France)、626(France)、635(Japan)、644(Alcatel-Lucent France 等)

(4) 出 力 文 書：5D/TEMP

307Rev2 JTG 5-6 からのリエゾン文書 5D/609 に対するリエゾンバック文書

310 レポート M.2039 改定に向けた作業文書(キャリーフォワード)

311Rev2 レポート M.2039 改定に係る外部団体へのリエゾン文書

(5) 審 議 概 要：

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は JTG 5-6 とのリエゾン文書に係る作業と IMT-2000 共用検討パラメータレポート M.2039 の改定に関わる作業を所掌とし、前回第 6 回ドレスデン会合においては JTG 5-6 への 5-6/93 への修正を伝えるリエゾン文書(5-6/106)の作成、レポート M.2039 の改定に向けた作業文書の更新を実施している。

本会合では JTG 5-6 からのさらなる情報提供を要求するリエゾン文書 5D/609 の入力に対して 2 件の寄与文書(5D/626, 644)が入力され、レポート M.2039 の作業文書の更新については日本提案 5D/635 を含む 2 件の寄与文書が入力された。SWG Sharing 議長の提案により、前回会合と同様に DG にて JTG 5-6 からのリエゾンバック文書の作成とレポート M.2039 に係る作業を実施することとなり、DG 議長には第 6 回会合に引き続き Millet 氏が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 2 回開催され、1 回目は JTG 5-6 に対するリエゾンバック文書案の作成、2 回目はレポート M.2039 の作業文書の更新と外部団体へのリエゾン文書案についてそれぞれ討議した。

1) JTG 506 からのリエゾン文書 5D/609 へのリエゾンバック案の作成について

- DG に先立ち DG 議長、EBU からそれぞれリエゾンバック案が入力され、EBU からのコメントを受けて DG 議長案をベースにリエゾンバック案を作成することとなった。
- DG 議長案のリエゾンバック案は、JTG 5-6 からの 2 つの質問のうち基地局及び端末の信号の時間変動に関わる標準的なテストプロファイル(質問 1)に対しては回答がないこと、e.i.r.p とセル半径の関係(質問 2)に関しては 5D/526、5D/544 の内容を用いて回答を作成しており、(質問 2)に関しては EBU、露が支持、仏からは WP5D として既に 5-6/106 として値を入力しているため 5D/526 の内容を含めることに懸念が示されたがあくまで例として扱う形で内容は維持された。
- EBU から計算の過程がないことに懸念が示されたため、各項目に参照元の文書番号(5D/xxx)を追加することとなった。
- (質問 1)に関しては EBU のリエゾンバック案に 5D からのコメントが含まれており、Qualcomm が EBU 案をベースにコメントを修正することを指示、Ericsson 及び DG 議長のコメントを元に “standardized test profiles” の必要性を記載するとともに、地域環境・サービス等により “standardized test profiles” を定める事の難しさをコメントするテキストに修正した。
- リエゾン文書のレビューを実施した際に仏より 4 章の Table に関して”すべてのネットワークで利用すべきでない”旨のコメントの追加を希望し、EBU からは 5D/644 の文章を引用してはどうかとコメントがあり、露が支持、また、すでにリエゾンバック案の 5 章(3 章、4 章の解釈)に含まれていたため修正は実施しなかった。
- 上記で DG 内でのリエゾンバック案の作業は完了、SWG Sharing Study、WG SPEC を経てリエゾンバック案は TEMP307Rev2 として Plenary で承認された。

2) レポート M.2039 改訂に係る作業について

- 作業文書の更新は前回会合で Editor’s Note として追加された項目(更新に IMT-Advanced を含むかどうか、周波

数帯のグループ化)をベースに仏からの入力 5D/524 の修正を加えた文書を元に討議した。

- IMT-Advanced を含めることに関しては日本から時期尚早であること、仏から含めないことが寄与文書で提案されたため、1 章に “Parameters IMT-Advanced interfaces are not addressed in this Report.”を追加し今回の更新では IMT-Advanced を含めないことで合意した。
- 周波数帯のグループ化に関しては DG 議長から 1GHz 以下を 1 つのグループで扱うことを提案したが、露が反対、Intel からは仏提案には 3.4-3.6GHz の項目がないため追加を要望。最終的に下記 4 グループが作業文書内の項目化されている。
  - First group: 1 800 MHz, 2 GHz, 2.3 GHz, 2.5 GHz.
  - Second group: 698-806 MHz, 790-862 MHz, 880-960 MHz.
  - Third group: 450-470 MHz.
  - Fourth group: 3 400-3 600 MHz band.
- Intel からは First group 等の表記を削除する提案があったが最新の TEMP 文書には反映されていない。
- 米の提案によりテキストから IMT に特定された周波数帯の表への修正提案があり反映。
- そのエディトリアルな修正を実施し作業文書の更新は終了した。
- 外部団体へのリエゾン文書に関しては上記作業文書で討議した項目を中心に下記項目を伝える内容となっている。
  - レポートの改定に IMT-Advanced を含めないこと.
  - 450-470MHz 帯に関しては UHF 帯のパラメータとグループ化が可能かどうか(可能でない場合は詳細パラメータを要望)
  - 1.8GHz、2GHz、2.3GHz、2.5GHz 帯に関してはグループ化可能かどうか(可能でない場合は各周波数帯のパラメータを要望)
  - 既存のレポートに対する更新情報を要望(日本提案を反映)
  - 3.4-3.6GHz に関しては詳細パラメータを要望.
- SWG Sharing Study、WG SPEC を経てリエゾン文書案 TEMP/311Rev2 は Plenary で承認され、作業文書 TEMP/310 に関しては次回会合にキャリーフォワードされた。

(6) 今後の課題：

レポート M.2039 の改定作業は残り 2 回の会合で完了予定であるため、次回会合においても必要に応じて作業を促進するような入力を検討する必要がある。

５．３．１．２ DG IMT MITIGATION

(1) 議　　長： John Lewis(Samsung)

(2) 主要メンバ： 米、加、英、独、仏、露、中、韓、ニュージーランド、Brazil、他各国、WiMAX-F、Intel、Qualcomm、日本代表団（新、小松、菅田、北）、約 30 名程度

(3) 入力文書： Doc. 5D/625(仏), 633(日), 664(韓)

(4) 出力文書：5D/TEMP

302　3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書

303　同勧告草案に関する WP4A へのリエゾン文書

304　同勧告草案に関する外部団体へのリエゾン文書

319　SWG Sharing Studies に関する作業計画（IMT Mitigation 部分）

(5) 審議概要：

(5-1)　所掌と経緯

第 6 回ドレスデン会合では、SG4 で承認された 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法の新勧告案 S.[IMT-PFD]（4/105Rev.1）に対して、一部記載の修正を求める WP5D 議長から SG4 議長へのノートを発出するとともに、WP5D において干渉軽減技術に関する新勧告を作成すること、その際 IMT と FSS の共用検討レポート（M.2109）の干渉軽減技術の節(8.1.5,8.1.6)をベースとすることが合意され、マイクロワークプランが作成された。

第 7 回トリノ会合では 3 件の入力文書が入力され、DG において新勧告素案の作業文書、関連するリエゾン文書を作成することになり、DG 議長には前回 SG4 議長へのノート作成を担当した John Lewis 氏(Samsung)が選出された。

DG 会合では、DG 議長らの作成した作業文書、リエゾン文書案が審議された。

(5-2)　審議概要と主要結果

DG では、DG 議長が仏案をベースに 3 カ国の入力文書により作成した作業文書案について、タイトルから ANNEX まで全体を紹介し、それぞれの部分で仏・日で異なる提案部分をハイライトし、各相違点について、どのように扱うかが議論された。WP4A 及び外部団体へのリエゾン文書については、DG 議長及び Intel が作成したリエゾン文書案を第 2 回 DG 会合において審議した。

① 新勧告草案の作業文書

1) タイトル

・仏：干渉軽減技術と周波数管理技術があるので、干渉軽減技術に限定しない「共用を改善するために適用する技術」としたと説明した。

・日：仏の見解は理解できる、周波数の部分以外は、仏案でよいとした。

・結果として、仏案が採用された。

2) 周波数範囲

・仏：SG4 で承認/勧告化された S.1856（IMT.PFD）の周波数範囲を踏襲しているが M.2109 の技術は周波数非依存、Intel : 周波数非依存でありもっと一般的な表現でよい、米 : 3.4-3.6GHz を超えることには懸念、日 : 3.4-3.6GHz 以外に移動業務と FSS が Co-primary で割り当てられている帯域があることを考慮、露 : 周波数非依存は理解、等の意見があり、独（SWFG-Sharing 議長）から、タイトルは現状のまま 3.4-3.6GHz とし、ANNEX のタイトルに 3.4-3.6GHz 以外にも適用できるという脚注を付けることを提案し、合意された。

・DG 議長は、当初独提案とおり「3.4-3.6GHz 以外にも適用できる」とのテキストを記載したが、ロシアが周波数を記載することに懸念を示し「周波数非依存である」という一般的な表現で合意された。

3) スコープ

・仏案の「in order to improve the compatibility situation between transmitting IMT base stations and receiving FSS earth stations」と日本の「to facilitate the sharing/compatibility between IMT systems and FSS networks」が選択肢として説明されたが、日本も仏案に反対せず（同意し）、仏案で決着した。

4)considering 部／noting 部

・SG4 の S.1856 を参照する記述について、仏の「S.1856 は 3 つの適用可能なメソドロジー」と日本の「S.1856 は PFD 適合性を検証するためのメソドロジーを含む」とが選択肢となっていたが、日本より「この表現は S.1856 のスコープから引用したもので、SG4 ピープルにも受け入れ易いのでこちらを提案する」と主張し、仏も反対せず、日本案が採用された。

5)recommends 部

・タイトルに周波数を記載することになったので、仏案のままで合意。

6)ANNEX 部

・周波数範囲の議論に従って、タイトルに下記の脚注を追加した。

The techniques described in this Annex (many of which had been earlier developed in ITU-R Report M.2109) are frequency independent.

・露より、勧告のタイトルは IMT だが、ANNEX では IMT-Advanced を使っているので仏の意図は何か、と質問があったが、仏は単に M.2109 からコピー&ペーストしたので他意はない、決議により IMT は IMT-2000 と IMT-Advanced を含み IMT でよいとし、DG 議長が Editorial に変更することになった。

・米より、2.1 の「Dynamic spectrum allocation」は別の意味で使われることがあり「[Flexible spectrum access」がよいと提案したが、独より WP5B では「Dynamic Frequency Selection」という用語もある、Intel よりレーダーでの DFS の性能は確認されていないとの指摘もある、仏より それは特殊なケース、等の議論により、両方に [ ] を付けて併記することで合意。（

・米より 2.2 の「Usage of beacon」は、FSS 受信機の数が多いことやライセンスの無い局（識別されない局）があり問題があると指摘し､仏が 2 年前の共用検討の議論に戻る､C バンドを使う国と使わない国がある、日本が２のタイトルの直後に「In areas where all the frequency resources are not fully utilized by the FSS earth station」の記述があり米の懸念は解消するはずと指摘し、これらを考慮したテキスト追加が必要なことが Editor‘s note として追加された。

・2.3 の「Use of Cognitive Radio Systems」についても、テキスト追加が必要なことが Editor‘s note に追加された。

第 2 回 DG 会合で、作業文書が再度審議された。

・ Considering l) について、will → may へ変更。米国が支持し採用。

that, in applying the methodologies in noting b), implementation of interference mitigation techniques ~~will~~ may result in shorter coordination distance to meet the pfd limit in RR provisions above;

・ 金曜日の議論に従って、Annex においては、IMT-Advanced → IMT へ変更。

・ Annex の Section 2.1 のタイトルについては、[Dynamic spectrum allocation]と [Flexible spectrum access]をそれぞれ併記し、次回 WP5D 会合で継続議論することにした。後の SWG-Sharing 第 2 回会合で再度議論された。）

・ 以上で、作業文書のレビューを完了し、修正履歴を反映して、SWG Sharing Studies へ送ることにした。

② WP4A へのリエゾン文書案

・仏より、” it has commenced work on a Draft New Recommendation intended to be complementary to Recommendation ITU-R S.1856”、との表現について、complementary とする表現について不要ではないかとコメント。一方、米国は、be used in conjunction with Recommendation ITU-R S.1856 と修正する提案。ロシアよりは、conjunction with … という表現の適切性について確認のコメント。ＮＺからは、conjunction with … は強い意味であり、associated with とする代替表現についてコメント。ロシアから、which may be used in association with … とする表現が良いとの提案があり、米国から association → conjunction に変更する提案があり、当該表現を反映。

・インテルより､タイトルの修正提案があり、 Techniques to ~~apply so as to~~ improve the compatibility … に修正。

・以上で、リエゾン文書案のレビューを完了し、 SWG Sharing Studies へ送ることにした。

③ 外部団体へのリエゾン文書案

・ WP4A へのリエゾン文書案と同様な修正を、本リエゾン文書案にも施す。

・上記以外に特段の修正はなく、 SWG Sharing Studies へ送ることにした。

(6) 今後の課題：

3 月 23 日～4 月 1 日に予定されている WP4A での議論（反応）、完成スケジュールを考慮しながら、適切な内容になるよう、必要に応じて対処することが必要である。

５．３．１．３ DG ANTENNA ISOLATION

(1) 議　　長：S. Magnasson（Ericsson）

(2) 主要メンバ：米、加、英、独、仏、露、Sweden、Finland、中、韓、豪、ニュージーランド、他各国、UMTS-F、WiMAX-F、EBU、日本代表団（橋本、新、菅田、北、小松）、約 30 名程度

(3) 入力文書： 5D/606(WP5A), 639 (WiMAXF), 641(Qualcomm), 646, 649 (China), 673(WP1A)

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP

305　IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]の作業文書

306　同レポート案に関する WP1A 及び 5A へのリエゾン文書

319　SWG Sharing Studies に関する作業計画（ANT ISO 部分）

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

第 5 回ジュネーブ会合において、ITU-T SG5 から K シリーズの勧告として鉄塔共用等を想定したアンテナ・アイソレーションに関する新勧告を作成したいが、WP5D(5A)がその種の作業を行っているかを確認するリエゾン文書を受領し、これは本来 ITU-R の所掌であるとして今後 WP5D で検討を行うこととし、ITU-T SG5 にその旨のリエゾンを返していた。

第 6 回ドレスデン会合では、カナダ、Qualcomm、Ericsson らで入力文書（5D/540, 552）をマージした作業文書をオフラインで作成し、新規レポートに向けたスターティングポイントとして、本会合にキャリーフォワードしていた。

本 DG は、SWG-Sharing 第 1 回会合において、新レポートに向けた作業文書の更新、関連 WP へのリエゾンバックを作成することを目的に設立され、DG 議長には Sverker Magnasson 氏 （Ericsson）が選出された。

今会合における第 1 回 DG 会合では、SWG-Sharing 第 1 回会合でプレゼン済みの入力文書の追加審議と作業の方向性の確認、第 2 回 DG 会合では、DG 議長が作成したリエゾン文書案、作業文書案が審議された。

(5-2) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、DG 議長より、各文書は前日の SWG-Sharing 第 1 回会合で紹介されているが Additional Remarks があるかを確認した。主な質疑は以下の通り。

5D/606 (WP 5A)

・特になし

5D/639 (WiMAX Forum)

ー＞作業文書に反映することで合意。

5D/641 (Qualcomm)

・WiMAXF が式の変更理由を質問し、Qualcomm から WP1A のリエゾンに記載の SM.337 に従ったと回答。

・米より、Introduction and scope 部の「spatial separation is possibly the most flexible」は適切でないと指摘し、Conclusion 部に移動、全体に[ ]を付けておいて再検討、等の案がでたが、結局「spatial separation is flexible」として合意。

・WF の指摘で、Introduction and scope を別々な章に分離することで合意。

5D/646 (China)

・初めに中国から、3 オペレータが多くの技術で運用し鉄塔共用が必要など、アンテナ・アイソレーションの必要性を説明した。

・WiMAXF から、昨日議論があったように現作業文書のアプローチと異なり technology dependent だと指摘し、中国から technology 毎にスプリアス仕様が異なり、アイソレーション要求条件を求めるために必要と回答。

・米から、この文書の目的は何か、仕様から要求条件を計算するということかと質問し、中国から technology dependent なものでなく、ジェネラルなメソドロジーであると回答。

・Qualcomm から、仕様は Technology 毎に異なり M.1457 が改版されるように仕様も変化する、実際の要求条件が必要なのは中国のライセンス手続き上の問題、そもそもこの作業は ITU-T からのリエゾンに基づいて 5A と 5D で始めたもので緊急を要するものだった、もしこのような手法を採用すれば仕様のテーブルの完成に多くの時間を要する、M.1580/1581 との改版との関係、外部団体との情報の交換、etc。WP5D の所掌は IMT であって GSM800、GSM1800 は 5A の所掌。この方法を採るならスコープの変更、ワークプランの見直しも必要、等をコメント。

・カナダからも、当初の目的はアンテナ間のアイソレーションだった、今度はスプリアス特性、ブロッキング特性、混変調特性、受信感度を必要とし、各主官庁の問題。FCC マーク、ＣＥマークとか基地局のタイプアプルーバルを行いたいのか？それらはＩＴＵのスコープ外。論理的なモデルを作ることは問題ないが、それ以上は問題、等と指摘。

・WiMAXF から、スコープとの違いは何故か、例えば GSM900 でアイソレーションが 55dB 必要となったらそれをどの様に使うのか、離隔距離を〇〇m とか出すのか、それからどうする？現作業文書は共用検討ではない。今度の内容は、Isolation の作業とは別な作業ではないか、作業を分けるべき、と指摘。

ー＞これらの議論を踏まえ、DG 議長が純粋に Antenna Isolation に関する作業と共用検討に関する作業に分けることを提案し、週末に中国とオフラインで議論して、第 2 回会合に結果を報告するとした。（基本的には中国担当者も合意、本国あるいは代表者との確認が必要か。）

第 2 回会合では、DG 議長の作成したリエゾン文書案、新レポートに向けた作業文書、ワークプランが審議された。

①関連 WP へのリエゾン文書

・DG 議長の作成した WP5A (1A、ITU-T WP1,2?)へのリエゾン案（WP5D へのリエゾンの謝辞、WP5D 内での作業状況、今後のスケジュールを伝えるもの）をレビューし、宛先（WP1A 及び 5A、cc：ITU-T SG5 WP2A）、本文の文書番号、WP1A からの情報提供の表現、今後の協調先（5A に 1A を追加）の修正を行って、SWG-Sharing に提出することが合意された。

②外部団体へのリエゾン文書

・DG 議長より、前回特に強い意見が無かったのでリエゾン案を作成していないが、出すべきという意見があるかを確認し、特に意見が無かったので、外部団体へのリエゾン作成は見送られた。

③更新した作業文書

・DG 議長が、中国（5D/646,649）、WiMAXF（5D/639）、Qualcomm(5D.641)の提案をマージした作業文書を示し、異なる提案部分は併記してあり次回に寄与文書を要請することが説明された。

・Introduction、Scope,,,,,と順にレビューし、3 章以降で、3.2.1 水平面のアイソレーションの部分に、ソースは CCSA の WG ST4 であることの Note が追加され、中国が次回に水平面の式のサイドローブの項に関する情報を提供するとし、3.2.4 の「Antennas on close proximity sites」は現在空欄だが、この節の案はカナダだったとし、次回にカナダからのテキストを期待することとした。

・また、第 4 章の[4 Technology specific analysis]の部分（前回議論になったところ）では、DG 議長が先週異なる意見が出された部分について中国とオフラインで議論し、[ ]を付けて残していると説明された。中国は、Technology の特性、結果等のサマリー（表）を Reference、参考として ANNEX に移すことを提案した。しかし、Qualcomm、WiMAXF らが IMT 以外の方式を含む、仕様を含むと変更があった場合に維持するのが困難等の懸念を示し、DG 議長の妥協案として、4 章を幾つかの例を示す内容に置き換えて ANNEX に移すこととし、詳細は次回に寄与文書を要請するノートを付与することで合意された。

④ワークプラン

・DG 議長が、現在のワークプラン（5D/597 Att2.7）をスクリーンに示し、オンラインでレビューし、1)関係文書に SM.337 を追加、2)第 7 回会合の場所を Turin と明記、3)第 8 回の外部機関からの入力文書の表現を修正、4)エディターを DG 議長の Sverker 氏とすることで合意された。

(6) 今後の課題：

・ 今会合では、中国がアンテナ・アイソレーションのみならず、スプリアス特性、ブロッキング特性、混変調特性、受信感度等のパラメータを用いる方式特有の共用検討も対象とする提案を行い、DG レベルでは幾つかの例を ANNEX に移すことが合意されたものの、SWG-Sharing の第 2 回会合で、DG 会合後の NOTE の修正として、「スプリアス特性、混変調特性などによる干渉計算の一般的な記述は本文（Mainbody）に残す」との修正案が示され、合意されてしまった。

・ 中国の提案は、今会合で多くの指摘があったように当初のスコープを越え、完成及びメンテナンスが困難な内容になる懸念がある。もともと中国の事業者間で鉄塔の共用を義務付けるという中国の国内事情に端を発した作業であり、過度な作業にならないよう、適切な内容となるよう、必要に応じて対処することが必要である。

５．３．２ SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS

(1) 議　　長：Y. Zhu（中）、A. Sanders（米）

(2) 主要メンバ：米、加、英、仏、独、露、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、中、韓、印、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、ｸｱﾙｺﾑ、ｴﾘｸｿﾝ、ﾉｷｱ、日本代表団（坂中、橋本、小松、広池、菅田、北、新）、全 70 名程度

(3) 入力文書：Doc. 5D/619（米）、622（加）、631（日）、638（WiMAX-F）、642（UMTS-F）、643（UMTS-F）、654（独）、655（独）、656（ｴﾘｸｿﾝ）、659（UAE）、665（ｺﾛﾝﾋﾞｱ）、666（ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）

(4) 出力文書：Doc. 5D/TEMP

299　周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に係る作業計画

300　勧告 M.1036 改訂に向けた作業文書

301　SWG Frequency Arrangements 議長報告

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

WRC-07 において新たな周波数が IMT に特定されるとともに、既存 IMT-2000 帯域も IMT に特定し直されたことにより、周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 を改訂することが WP5D 第 1 回会合で合意され、勧告改訂の作業が実施されている。前回会合に引き続き、Y. Zhu 氏（中）、及び A. Sanders 女史（米）が SWG 議長に任命さ

れた。

今回の WP5D 会合では、合計 6 ピリオド開催され、

① 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新

② M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

についての議論が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

① 周波数アレンジメント勧告M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新

関連入力文書として、12 件の入力があった。以下、各項目で行われた主な議論を以下にまとめる。

- 勧告本体部分（main body）の議論

（1 章 Introduction）

・ 文書 5D/631（日）及び 666（ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）の提案により、IMT-2000 を説明する文章について、勧告 M.1457 の記載と一致させる修正を行った。

・ 文書 5D/ 666（ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）の提案により、IMT を説明する文について、位置を変更した。

（2 章 Scope）

・ 文書 5D/619（米）及び 654（独）の提案により、regulatory aspects を implementation aspects との表現に修正した。

（5 章 Recoginitions）

・ 文書 5D/631（日）の提案により、IMT-2000 を IMT に変更するエディトリアル修正を行った。

（6 章 General considerations）

・ 前回 WP5D 会合で合意できなかった、FDD と TDD の周波数アレンジメントを収容する場合の問題点を記載した consideration について、文書 5D/638（WiMAX-F）から各種追記提案が行われたが、カナダ、UMTS-F より内容として不適切との反対意見が述べられ、文書 5D/631（日）のように単純に[ ]を外してオリジナルテキストを利用することを支持し、フィンランドも支持した。一方、英国、米国は、フレキシビリティに関するテキストとして内容を支持し、オリジナルテキストのままでは不適切と反対した。最終的に議論はまとまらず、WiMAX-F がオフラインで修正したテキストを[ ]付のままにして、次回 WP5D 会合で継続議論することにした。なお本議論の一部の内容として、TDD と FDD が同一地域でオーバラップして使用する際のガードバンドについて述べた記載について、consideration nbis) として新たに合意された。

（7.4bis 章 Dual Duplexer）

・ 文書 5D/642（UMTS-F）提案のテキスト修正が反映された。

・ Dual Duplexer の図面については、文書 5D/631（日）、及び 666（ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）の提案があったが、スウェーデンより、周波数割当の柔軟性を考慮して、2 つのデュプレックスアレンジメントをオーバラップさせる図面とすべきとのコメントがあり、オフラインで議論を行って、図面の修正及び関連テキストを作成し、作業文書に反映した。

（Annex 4 及び 5 の表形式）

・ 文書 5D/655（独）の提案により、Annex 4 及び 5 の表について、他の Annex の表と形式をあわせる修正が行われた。

- 周波数アレンジメントのフレキシビリティ（Flexible FDD/TDD）に関する議論

過去数回の WP5D 会合で議論となっている、周波数アレンジメントにおけるフレキシビリティ（Flexible FDD/TDD と呼ばれる周波数アレンジメントの取り扱い）に対して、5D/619（米）、622（加）、638（WiMAX-F）、643（UMTS-F）、656（エリクソン）、659（UAE）、665（コロンビア）の 7 件の入力文書があった。このうち、

米、UAE、コロンビア及び WiMAX-F は、Flexible FDD/TDD を周波数アレンジメントの一つとして定義することを支持する入力文書である。これは、技術中立性の観点や主管庁の自由裁量等の点から必要であり、既に 2.5GHz 帯の C3 として定義がされている等の理由によるものである。一方、カナダ、UMTS-F 及びエリクソンは、勧告の各 Annex に Flexible FDD/TDD を周波数アレンジメントして定義する、あるいは関連の NOTE を追加することに反対の立場であり、勧告本体にフレキシビリティに関する記載を行うべきとの入力文書であった。これは、主管庁の自由裁量は当然であり周波数アレンジメントして定義する必要はないこと、Flexible FDD/TDD は周波数の使い方として何ら勧告を行っておらず不適切である等の理由によるものである。

本 SWG では、周波数アレンジメントについて記載した Annex の修正を行う前に、Flexible FDD/TDD 自体の定義を行なうための議論が行われた。両陣営を代表して、インテル及び UMTS-F からそれぞれが考える定義の案文が示されたが、議論はまとまらなかった。議論の途中で、記載をよりシンプルにして議論をすべきとのコロンビアより案文の提案が行われ、修正が続けられた。しかしながら、最終的に議論はまとまらず、以下の文章を作業文書に[ ] 付で入れて、次回 WP5D 会合で引き続き議論することにした。

["Flexible FDD/TDD" means that the duplexing method, whether TDD or FDD, is not determined prior to the process for gaining access to radio frequency spectrum. The duplex arrangement is a consequence of a user-needs-based approach to the spectrum access process, where the service provider freely decides which of these duplexing methods to use as well as the technology to be implemented. "Flexible FDD/TDD" does not mean that any specific decision has been taken by the administration with respect to spectrum blocks (for example, frequency boundaries, block sizes and pairing, etc.).]

② M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

前回会合で作成した作業計画に対して、本質的な修正は行われず、一部エディトリアルな修正のみを行った。したがって勧告改訂案の完成目標時期は、引き続き第 10 回会合（2011 年 2 月）のままである。

(6) 今後の課題：

- 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、適切に対処していく必要がある。また、作業計画上、残り 3 回の会合で改訂案を完成させる必要があるため、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある

５．３．３　AH Spectrum

(1) 議　　長：Alan Jamieson（ニュージーランド）

(2) 主要メンバ：米、加、英、仏、独、露、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、中、韓、ｸｱﾙｺﾑ、ｴﾘｸｿﾝ、ﾉｷｱ、ｻﾑｿﾝ、FreeTV（豪）
日本代表団（小松、菅田、北、新）、全 20 名程度

(3) 入力文書：Doc.5D/617（米）

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP
308　UHF 帯における共用検討の作業計画

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

文書 5D/617（米）からの 698-960MHz 帯における IMT システムと他無線業務を含む他システムとの両立性検討を開始する提案をきっかけに、JTG5-6 との作業重複を避けるため休止していた決議 224（WRC-07 改）に基づく UHF 帯の共用検討の進め方について検討を行うアドホック会合として AH Spectrum が設置された。AH 議長

は、WG Spectrum Aspects 議長の A. Jamieson 氏（ニュージーランド）が担当した。今回の WP5D 会合では合計 2 ピリオド開催された。

(5-2) 審議概要と主要結果

第 1 回の AH 会合では、WP5D 第 1 回会合で作成した UHF 帯の共用検討に関する作業計画（5D/97 Attachment 2、注 : JTG5-6 との作業重複を避けるため当該作業計画は一時中止していた）をベースに修正を行うことにした。AH 議長の提案により、JTG5-6 との作業のすみわけについてまとめた SG5 及び 6 議長からの文書 5/49(Rev.1)を関連文書として追加すると共に、IMT の研究課題 229/5 を追加した。本 AH においては、論点のリストアップが行われ、JTG5-6 の検討結果をレビューすること、WP6A には完成した作業計画を添付してリエゾン文書として送付すること、作業は 2011 年まで継続すること、米国の入力文書（5D/617）については次回 WP5D 会合にキャリーフォワードして中身を精査していくこと、等が合意された。

作業計画の詳細検討については、関係者がドラフティンググループ（DG）として集まり、議論を行った。DG で出された主な意見は、以下の通りである。

- 仏より、Scope 内で、"The results of the studies in these bands as outlined may have an impact on frequency arrangements under development by WP 5D." とあるが、本検討結果による CEPT の周波数アレンジメントへの変更は難しいであろうとコメントがあった。
- エリクソンより、Focus for scope and work について、決議 224（WRC-07 改）に基づいた記載となっており、当該決議内の周波数の以外への検討の可能性について制限されてしまうとのコメントがあった。AH 議長よりその点をカバーする文の追記が示唆されたが、ロシアが反対し決議 224 に基づくべきと反論した。AH 議長より、他の周波数の検討については、"The studies will focus on deployment of Mobile Services/IMT and other primary services in the UHF band in the same geographical area and in adjacent geographical areas."、示唆されているとして、当初は決議 224 に基づいて検討を行うとの文意に修正した。
- 独からの指摘により、8/190 をリファーしているが、SG8 で差し戻しとなったドキュメントをリファーするのが適切かとコメントがあったが、Qualcomm より、SG8 で差し戻された内容を再度レビューするべきであること、AH 議長からもなぜ差し戻しとなったのか内容を見る必要があるとのコメントがあり、そのまま残すことにした。
- 独より、周波数アレンジメント勧告 M.1036 が第 10 回会合に完成予定であるが、その点を考慮しなくて良いかとコメントがあったが、AH 議長からは、本共用検討結果についてなんらか周波数アレンジメントの変更を伴うものであれば、M.1036 の次の改訂のタイミングで考えればよいと回答があった。

第 2 回の AH 会合では、上記のドラフティンググループで作成した作業計画のレビューを行い、特段コメントなく合意し、WG Spectrum Aspects に諮ることにした。また、WP6A へのリエゾン文書については、AH 議長が準備し、WG Spectrum Aspects で直接審議することにした。なお、橋本 SG5 議長より、SG6 議長にコンタクトし、決議 224 の作業を円滑に実施するためのショートペーパーを作成する計画があることがコメントされた。

(6) 今後の課題：

- 特になし（本件に関わる AH の設置は今会合限りであると想定されるため）

５．４　AH WORKPLAN

(1) 議　　長： Hakan OHLSEN（スウェーデン）

(2) 主要メンバ： S. Blust（WP5D 議長）、A. JAMIESON（WG-SPEC 議長）、S. Lixin（WG-TECH 議長）、M. Grant（SWG-Radio Aspect 議長）、H. WANG (SWG-WVAL 議長)、N. P. Magnani(SWG-1457 議長)、

U. LÖWENSTEIN（SWG-1580/1581 議長）、J.Costa（加）、S. Grreen（UK）、K.J. Wee(WG-GENE 議長)他、日本代表団（坂中団長、橋本、本多、石川、林、佐藤(一)、他）、合計約 60 名

(3) 入 力 文 書：

5D/600（SG5 議長） WTPF-09 の結果関連で WPs の注意を喚起する課題

5D/597 （WP5D 議長） WP5D 議長報告第 2 章「ITU-R WP 5D の組織とワークプラン」

5D/663 （韓） 新勧告草案 ITU-R M.[IMT.RSPEC]の詳細ワークプランの提案

(4) 出 力 文 書：

5D/TEMP/329 （AH WORKPLAN の会合報告）

5D/TEMP/328 （WP5D 議長報告第 2 章「ITU-R WP5D の組織とワークプラン」の最新化版）

(5) 審 議 概 要：

(5-1) 所掌と経緯

中長期的作業計画に従って活動する必要があるとされた経緯から、毎回会合ごとに Living Document として各作業グループ間の相互に関連ある作業計画等の調整作業を行うこと、また、WP5D 全体のワークプランを最新化して維持管理している。結果を WP5D 議長報告の第 2 章として添付している。

(5-2) 審議経過

- 今回会合では、AH-WORKPLAN は 1 回開催された。
- SG5 議長寄書（5D/600）説明の後、ワークプラン（5D/597：WP5D 議長報告第 2 章）のアップデートを行い、韓国寄書（5D/663）を元に議論する順序が議長から提案され、議題案及び進め方が承認された。

(i) 5D/600：SG5 議長から説明が行われ、特に議論もなく今後の作業の中で考慮に入れて置くこととされた(議長報告第 2 章にポイントが盛り込まれた)。

(ii) ワークプランのアップデート（5D/597：WP5D 議長報告第 2 章）：議長の修正案が示されて審議された。

- 前回会合で WG-DEV が解消されて、WG-GENE へ作業が移管されたことに関連した項目の修正が行われた。
  - アタッチメント(以降 Att.と省略)2.3 の体制表、体制図、並びに各 WG のハイレベルスコープの修正が行われて了承された。
  - Att.2.5 では、WG-DEV の議長を削除し、ITU-D SG2 ラポータを新設して同前議長カマルゴ氏(メキシコ)を充てた。
- 同じく Att.2.5 で正副議長の表で SWG_IMT.1457 を SWG_IMT RSPECS に名称を変更し、従来の M.1457 に加えて ITU-R 新勧告草案[IMT.RSPEC]を担当すること、議長は従来通りニコラ氏（伊）が担当することとされた。特に、異論はなかった。
- Att.2.6 では、会合スケジュールに過去の第 1 回からの会合も追加した。
  - 第 8 回会合の開催国としてベトナム並びに第 9 回会合を中国と決まったとして[ ]を外した。
  - CPM が 2011 年 2 月 14～25 日となったことをノートした。 その日程が決まったのでその後の会合スケジュールが確定された。ただし、第 11,12 及び第 13 会合は、開催国は未定である。
  - 米国が前回会合で提案していた IMT.RSPEC のアップデートの件はどうなっているかとの米国質問には Att.2.11 で追記していると議長が回答した。
- Att.2.8 では、第 12 回会合で新レポート草案 IMT.SHARING.UHF を最終化することが追記された。
- Att.2.9 詳細ワークプラン一覧に、今回韓国から 5D/663 で提案があった[IMT.RSPEC]、WG-SPEC 議長から要求があった新レポート草案[IMT.SHARING.UHF] 、並びに、[IMT.RADIO]の詳細ワークプランを追加した。

- Att.2.10 では、2.10.3 の ITU-D SG2 からのリエゾン（5D/319 参照）及び 2.10.5 も削除した。
  - 新たに、2.10.6 で SG5 議長の寄書（Doc. 5D/600) のポイントを追加した。ジャミセン氏からは今回で終わっているのに、特に追加する意味を質問された。今後、作業で留意する項目として追加したと議長は回答し、了承された。
- Att.2.11 の暫定のプロセス並びに全体タイムスケジュールでは、Fig.1 が第 11 回会合から[IMT.RSPEC]改定の第 2 ラウンドが始まることになっているので、エリクソンから内容について質問があった。議長は、M.1457 と同様の作業内容と考えられ、IMT-Advanced の新技術の追加或いは既存の現在審議対象となっている候補技術のアップデートと思われるが、詳細は決める必要があるとの回答がなされた。
  - Fig.2 では、前回修正された[IMT.RADIO]関連部分は、今回の結論でも特に修正はなかった。ただし、Key の文言が削除忘れで残っていたので改めて削除された。その図の後ろの表も前回決めたもので特に意見もなかった。

(iii) ITU-R 新勧告草案[IMT.RSPEC]のワークプラン：韓国寄書（5D/663）を元に議論された。

（議論の経緯と概要）：

- 韓国寄書 5D/663 を発端に IMT.RSPEC のオーバーオールのスケジュールが議論された。
  - [IMT.RSPEC]の詳細スケジュールを提案し、最終化は 2011 年 3 月の第 10 回会合としている。最終化期限、内容、プロセス、引いては“ファイナライズ”と“コンプリート”の定義まで持ち出す等の意見が多々出た。
  - 外部の標準化母体の開発スケジュールがタイトであることを理解して RA の開催日程がずれたことも考慮にいれると、2011 年の作業時間枠が広がったことから柔軟性を持たせても良いのではないかとするもの（主に、WP5D 議長や AH-Workplan 議長等）と、突然、先延ばしが意見されたので状況を理解できないものとの間で意見が割れた。
  - 第 10 回会合でコアースペックをファイナライズして、その後はアップデートプロセスであるとの意見と、AH 議長等は第 10 回会合から SG5 の会合日程もあるが、間に合うならトランスポーズ（勧告では各詳細技術仕様は M.1457 の様に各 SDO の仕様を web で参照する形式）を行って完成度の向上を行い第 12 回会合（2011 年 10 月）でファイナライズするとの意見が出た。
  - 米国は、外部の標準化機関は従来の第 10 回会合で完成させるスケジュールで作業を進めて来た。韓国寄書はスケジュールの変更は提案していないと意見した。日本からは、韓国寄書は第 10 回会合でファイナライズすると提案していることから、WP5D プロセスに従って寄書ドリブンで議論を行うべきと意見した。
  - UK 等の多くは、外部標準化機関の意見を聞くことを提案した。
  - 結局は、2011 年の第 10 回会合でファイナライズすると想定し、その後ことも次回会合で寄書を募って決めることとされた。

（意見としては下記のものが出た）

- ブラストは、[IMT.RSPEC]としては SG5 レベルへ上げる必要がある(RA で承認を受けたいとの意図もある由)。第 11 回（6 月）会合と第 12 回（10 月）会合へ各スペックの更なる詳細が提出されと思われる。第 10 回（3 月）はコアースペック仕様と思うとした。
- IMT-2000 と M.1457 のプロセスと作業経験から、[IMT.RSPEC]のプロセス用語 finalization と completion の意味を明確化することが必要である。
- 米国は第 10 回（2011 年 3 月）会合でファイナライズするスケジュールで ITU-R 内外が作業を進めていることから、変更の理由を理解できないと意見した。

・ [IMT.RSPEC]開発担当 SWG SPECS 議長は、[IMT.RSPEC]は IMT-2000 の場合の M.1457 と同じようにトランスポーズすることを提案していた。これは、IMT.2000 の場合の 1999 年 11 月に完成させたものと同様な仕様が想定されるとの発言があった（外部の標準化機関（SDO）での詳細仕様は未だ出来ていなかったが、勧告ではそれらを参照することとし、参照先の URL のみ記載したもの）。
・ UK は、外部の標準化機関から必要があれば入力を得て変更プロセスをクリアーにするべきである。
・ 米国も、外部機関に質問をするべきであると意見した。
・ インテルからは、2011 年 3 月会合で勧告のテキスト部分を終えて、技術内容は後で追加すると理解する。
・ 議長は、寄書ドリブンとしつつ、現状の寄書は[IMT.RSPEC]は第 10 回（3 月）に完成させるとなっているが、その後のことはトランスポーズを行い第 12 回（10 月）で最終化するとして外部機関に知らせて、それらからの入力を持って次回会合で決定すると纏め案を出した。しかし、納得されず議論は続いた。

（第 10 回会合以降のプロセスに対する見解等質疑：トランスポーズか、アップデートプロセスか）

・ FCC は、第 10 回会合以降は、ニュープロセスのことを言っているのか。
・ 韓国は、第 12 回会合は[IMT.RSPEC]のコンファメーションを行うのか、第 10 回が最終化で、その後の分はアップデートプロセスであろう。
・ UK は、プロセスは Web で外部に公開してきた、第 10 回が最終化で、第 11 回以降はアップデートプロセスである。
・ 議長は、第 10 回が最終化であり、その後トランスポーズプロセスであって、第 12 回が完成である。
・ ニコラは、1999 年ヘルシンキ会合と同じ内容として欲しい（トランスポーズと思われる）。
・ インテルは、アップデートプロセスか？
・ 議長は、入力によるとした。

(5-3) 審議結果

・ WP5D 議長報告第 2 章のワークプランが最新化された。
・ 韓国寄書を発端に、ITU-R 新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]のスケジュールのオーバーオールの議論が行われた。韓国寄書は第 10 回会合（2011 年 3 月）のファイナライズとしており現状に変更は無い。しかし、外部の標準化母体（3GPP、IEEE を指す）のスケジュールを聞くとして次回会合で寄書を募って決めることとした。

(5-4) 今後の課題

・ 現状では、WP5D 第 10 回会合で「IMT.RSPEC」の第 1 版を出すスケジュールには変更はない。外部の標準化母体のスケジュールを確認するとしているが、以下の点から多角的に確認と検討を行なう必要がある。

① 「IMT.RSPEC」の構成や性格の検討： M.1457 と同じようなものとするのか。
② スケジュールの検討： RA が延びたことも考慮して、[IMT.RSPEC]の最終化及び承認時期を提案する必要がある。

５．５ AH VOCABULARY

(1) 議　　長：Horst Mennenga (独)
(2) 主要メンバ：米、加、日本代表団（木幡、北）、全 5 名
(3) 入力文書：5D/TEMP/291(SWG Sharing からの用語リストに関する内部リエゾン文書)
(5) 審議概要：

AH 議長より、議題として ADM/161 についての紹介があり、SWG Sharing からの内部リエゾンに関する修正を行い ADM/161R1 として承認した。

作業の進め方として AH 議長よりベースドキュメントとして IMT-2000 に関する用語の勧告 M.1224 について紹介あった。米より勧告 M.1224 を改版するのかという質問があったが、AH 議長からは勧告自体が 10 年以上前に作成されており、構成の変更や定義の修正を行う必要があるため新規または CCV に登録されている定義と異なる用語をリスト化したレポートとしたいと回答。討議の結果レポートを作成していくとこに合意し、勧告 M.1224 の用語に関しては次回会合までに AH 議長が CCV で定義されている用語と比較を行い、新規、異なる定義の用語をリスト化することとなった。カナダからは他の WP との作業の重複に関する懸念があるとコメントがあり、議長からは WP5A とも連携していくと回答。

AH 議長より Opening Plenary で各 WG/SWG に用語リストを要望した結果、SWG Sharing 議長より 2009 年に SG5 で承認されたレポート M.2113-1、M.2146、M.2039-1 内の用語をまとめた内部リエゾン TEMP/291 が入力され内容を確認した。この TEMP 文書についても CCV との比較が必要とされたが作業は次回会合に実施することとなった。カナダからは略語の重複に対しての懸念が述べられたが、AH 議長より ITU-T/ITU-R において用語の定義等が異なるためだと回答し、新規または異なる定義の用語を今後取りまとめていくとコメント。(AH 終了後に AH 議長に“ITU Terms and Definitions”のページについ情報共有を実施、同一略語で複数の意味がデータベース上に登録されていること、同じ語句が重複して登録されていることを確認)

内部リエゾン文書 TEMP/291 については SWG Sharing での討議の結果 TEMP/291R1 に修正、Closing Plenary でキャリーフォワードされた。AH 議長からは他の WG/SWG からの同様のリストが必要だと再度要望している。

作業計画については次回会合においてワークプランを更新する予定であるが、AH 内では AH 議長の計画として第 11 回会合(2011 年 6 月)に作業を完成させる予定だとコメントがあった。また、米からコメントされたリエゾン文書に関しては次回会合で討議したいと AH 議長よりコメントがあった。

(5) 今後の課題：

各 SWG での新規用語や定義の収集を行うとともに、AH Vocabulary 活動を促進するために必要に応じて既存勧告、レポートからの用語のリストアップ作業を検討する必要がある。

6．Region 3非公式会合

(1) 議　　長：佐藤（孝）（日本）

(2) 出 席 メ ン バ：Y.Wan、L.Wang、H.Wang、Y.Li、Y.Zhu(中国)、K.J.Wee、D.J.Kim、J.Oh(韓国)、坂中、木幡、広池(日本)、A.Jamieson(ニュージーランド)、L.Bui(ベトナム)、P.Wongchutinat(タイ)、A.Fakrullah(マレーシア)、M.Sharma、V.Babu、J.Jena(インド)、J.Lewis (AWF)

(3) 入 力 文 書：5D/676(リージョン 3 ラポータ) Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3

(4) 審 議 概 要：

Region 3 参加国から、各国での IMT 等の移動通信システムの検討・導入状況並びに本 WP5D 会合における関心事項について情報を提供してもらい、それらについての質疑応答をする形で議事を進めた。また AWF の活動状況について情報を共有した。議事の状況は以下のとおりである。

①中国：

- 中国の評価グループ(ChEG)は他の IEG との協調活動を進めている。日本、韓国に加えインド、ロシア等とも議論をしてきている。また、3GPP と IEEE の各々が主催した外部評価関連の会議にも参加した。
- 中国の MIIT は 2.3～2.4GHz 帯の中の 50MHz を新たに TD-SCDMA にアサインした(2320-2370MHz)。
- 2009年初頭に3Gライセンスが付与されて1年が経過したが、現在の3Gの加入者数は約1千万であり、そのうち約半分はTD-SCDMAの加入者である。
- 今会合では IMT-Advanced 無線インタフェース候補技術の評価に注目している。

②日本：

- 携帯電話の加入者数は昨年末時点で約 1.10 億で、そのうちの約 96%が 3G のユーザである。
- オペレータは 2G のサービスを 2012 年 3 月までに終了する予定。ドコモは 2010 年 12 月に 2GHz 帯で LTE の商用サービスを開始する予定である。
- 昨年 12 月に情通審は CDMA2000EVDO マルチキャリア方式の技術的条件を答申した。
- 昨年 12 月に 700/900MHz 帯を使用する移動通信ｼｽﾃﾑの導入のための技術的条件の検討を開始した。これらの帯域はアナログ TV の放送終了と 800MHz 帯での携帯電話周波数の再編終了後に使用可能となる。今年の 10 月頃に答申が出る予定である。
- BWA については 2 社が昨年商用サービスを始めた。またカバレッジの改善のために今年の 7 月までに小電力リピータの運用が始まる予定である。
- 今会合では評価に関するコーディネーション活動を重要視している。日本は外部評価活動は行っていないがコーディネーションの面で貢献する。また、周波数アレンジメント関連（M.1036 の改訂、700MHz 帯の周波数アレンジメントに関する文書作成）、RSPEC のワークプラン等に関心がある。RSPEC は 2011 年 3 月の完成予定をキープすべきである。
- 日本における 4G の導入時期は未定だが、2015 年頃かもしれない。

③韓国：

- KCC は今年 2 月に 800MHz、900MHz、2.1GHz 帯のリファーミングの計画をリリースした。800MHz 帯については 2×10MHz を新規または既存の 3G オペレータに割り当て、900MHz 帯についても 2×10MHz を新規または既存の 3G オペレータに割り当て、2.1GHz 帯については 2×20MHz を新規または既存のオペレータに割り当てる予定である。
- TTA の PG707 は WP5D の IEG として、3GPP の評価 Workshop と IEEE の評価グループ調整会議に参加し評価結果を提出した。また、WP5D の今会合に両技術に関する評価レポートを提出した。
- CR と SDR に関する国際ワークショップがソウルで 2010 年 4 月に開催される。

- 今回の注目点は、RSPEC のスケジュール、DOC/612 に関する将来の作業計画など多くある。DOC/612 については研究する必要があり、将来のアジェンダである。2 週間後に開かれる APG にて WP5D のこの動きを Jamieson 氏がソーシャライズしてくれると有難い。（Wee 氏）

④ニュージーランド：

- 注目点は周波数アレンジメントと Digital Dividend である。アナログ TV の終了に備える必要がある。
- AWF で行われている UHF Digital Dividend に関するコレンスポンデンスグループ（CG）活動に興味がある。次回 AWF-8 においてこの分野で貢献したい。
- 今会合ではスペクトラム関連に注力している。

⑤ベトナム：

- ベトナムでは昨年 10 月に最初の 3GNW の運用が始まった。
- 現在、IMT 向けの新周波数の割り当て検討を行っている。2.3GHz 帯の TDD と 2.5GHz 帯の TDD/FDD である。
- 今会合での注目点は周波数アレンジメントである。2.5GHz 帯と Digital Dividend バンドに関心がある。

⑥マレーシア：

- 3G については 4 オペレータが 2GHz 帯に IMT（HSDPA）を入れて商用サービス中である。また、2.3GHz 帯で BWA として Mobile Wimax も展開中である。
- 今会合ではスペクトラム WG の周波数アレンジメントの議論に注目している。

⑦タイ：

- タイでは、GSM900/1800、CDMA20001X、HSPA、CDMA2000EVDO が運用されている。また 3G のコアバンド（2GHz 帯）では昨年 12 月に IMT(HSPA)の運用が始まった。
- TDD バンドも含めて周波数のリファーミングの検討が行われている。
- 今会合では周波数アレンジメントと周波数共用に関心がある。

⑧インド：

- インドにおける主要な携帯電話システムは 900/1800MHz 帯を使用した GSM 方式である。
- 3G のライセンスは 2010 年内の予定で遅れ気味である。2.1GHz 帯の W-CDMA が考えられている。また、2.5GHz 帯の BWA の導入も検討されている。
- 前回のドレスデン会合ではインドから 700MHz 帯の周波数アレンジメントの寄与文書を提出した。今会合ではフレキシブル TDD/FDD に関心がある。明確化が必要と考える。
- TCOE の Director の Jena 氏が今会合に出席している。IMT-Advanced 無線インタフェース候補技術の評価活動は大変重要でありインドはこれに貢献する。

⑨AWF：

- AWF では UHF Digital Dividend に関する CG 活動が行われているところである。この CG は技術的事項を検討し、結果を AWF-8 に報告するために設立された。3 月 10 日までに検討を終える予定で活動中である。（Lewis 氏）
- AWF の構成見直しと名称変更について現在 CG において議論を進めている。また、WP5D のトリノ会合中に AWF の主要関係者と意見交換を行っているところである。トリノ会合後に原案のアップデートを行い、CG の参加者へ伝える予定。CG 活動は今月末で終わらせるつもりである。（佐藤氏）

７．今後の予定等

７．１　WP5D 及び関連会合の今後の開催予定

WP5D 及び関連の会合の今後の予定は以下のとおりである。

［WP5D の開催予定］

・WP5D 第 8 回会合	ベトナム（ダ・ナン）	2010.6.9	ー	2010.6.16
・WP5D 第 9 回会合	中国（予定）	2010.10.13	ー	2010.10.20

［関連する会合の開催予定（日程は ITU の Web から抜粋）］

・WP5A	スイス（ジュネーブ）	2010.5.10	ー	2010.5.19
・WP5A	スイス（ジュネーブ）	2010.11.8	ー	2010.11.19
・SG5	スイス（ジュネーブ）	2010.11.22	ー	2010.11.23

参考資料 1 に IMT-Advanced 無線インタフェース勧告の開発スケジュールを示す。

７．２　次会合に向けての日本のアクション事項

７．２．１　WG GENERAL ASPECTS 関係

・　特になし

７．２．２　WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係

・　IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 10 版に向けての改訂に関しては、802.16m 技術が IMT-2000 側に含まれるのかをチェックするとともに、IMT-2000/IMT-Advanced の区分に関して国内で認識統一する必要がある。

・　IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、スケジュール・開発プロセス・勧告案等について、次回寄書入力を行う方向で検討する。

・　勧告 M.1580/M.1581 に関しては特に必要事項はない。

・　IMT.RADIO に関してステップ 6 の結果は提案者の性能値を記載し ITU-R が提案技術が最小要求条件を満たしていることを確認したとのフォーマットとなっており、ステップ 7 関連は提案者としてチェックすべき事項が残っているため、次回までにては検討を行い、必要であれば寄書入力を行う。

・　CRS に関しては必要であれば次回会合の寄書入力を検討する。

・　IMT-Advanced の選定プロセスに関しては、日本は提案者として引き続き CG の IEEE Technology、3GPP Technology 双方のトピックへの参加を行う必要がある。ARIB EG は IEG のトピックに参加を行う必要がある。

・　IMT-Advanced 選定プロセスに関しては必要であれば作業内容の提案を行う。

７．２．３　WG SPECTRUM ASPECTS 関係

・　周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。

(1)　勧告 M.1036-3-3 の改訂作業については、作業計画上、残り 3 回の会合で改訂案を完成させる必要があるため、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある。

(2)　作業文書[IMT.700]は、検討を継続することで合意されたが、作業文書の最終的な取り扱いについては否定的な意見もあり、同作業文書に含まれる日本からの提案テキスト（700/900MHz 帯をペアリングにした周波数

アレンジメントの考え方）の扱いをどのようにするべきか、検討を行っていく必要がある。

- 共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる拙速な結論が導かれないよう、適切に対処していく必要がある。
  (1) 新勧告案[IMT Mitigation]の作成、レポート M.2039 の改訂、新レポート案[ANT ISO]の作成の作業は、残り 2 回の会合での完了予定であり、必要に応じて、検討を促進する対処を検討していく必要がある。
  (2) UHF 帯における共用検討は、今後の議論の動向を注視するとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、対処を検討していく必要がある。

付属資料１　参加国・機関と寄与文書数

参加国	参加者数	寄与文書数
オーストリア	1	
ブラジル	5	1
ブルンジ	2	
カメルーン	1	
カナダ	5	1
中国	13	6(再掲 2)
コロンビア	1	1
エジプト	1	
フィンランド	1	
フランス	9	5
ドイツ	5	2
インド	4	
イタリア	12	
日本	18	6
ケニア	1	
韓国	13	4(再掲 2)
マレーシア	1	
メキシコ	1	
モロッコ	1	
ニュージーランド	1	
ロシア	4	
サウジアラビア	2	
セルビア	1	
スウェーデン	1	
スイス	1	
タイ	1	
チュニジア	2	
ウガンダ	1	
UAE	1	1
英国	3	
米国	12	4
ベトナム	1	
ジンバブエ	1	
小計	127	31

参加機関	参加者数	寄与文書数
China Mobile	3	
フランステレコム	2(再掲 1)	
E-Plus Mobilfunk	1(再掲 1)	
O2 Germany	1	
テレコムイタリア	12(再掲 9)	
NTT ドコモ	1	1(再掲 1)
Telenor ASA	1	
Telefonica, S.A.	1	
テリアソネラ（スウェーデン）	1	
AT&T	1	1
Free TV Australia	1	
大唐テレコム	3	
Huawei		
ZTE	3	
ノキア	2	2(再掲 1)
Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG		1(再掲 1)
Agilent Technologies Inc.		2
アルカテルルーセント（フランス）	3(再掲 2)	
サムスン	2	
Telefon AB –LM Ericsson	8	3(再掲 2)
アルカテルルーセント(米国)	2	2(再掲 2)
インテル（米国）	4	
モトローラ（米国）	1	
Qualcomm	2	3(再掲 2)
European Broadcasting Union	2	
European Communications Office	1	
ETSI		1
IEEE	2(再掲 1)	2
UMTS Forum		2
WiMAX Forum	3(再掲 2)	4
Ericsson Canada	2(再掲 2)	
Clearwire, Inc.	1	
Radiocommunication Bureau	3	
ATIS		2
BR Study Group Department		
Chairman, SG 5		1
Chairman, WP5D		1
Chairman & Vice Chairmen WP5D		
Director, BR		13
ITU-D SG2		
ITU-R SG4		
ITU-R SG5		
ITU-T SG2		
ITU-T SG5		1
ITU-T SG13		
ITU-T SG15		2

参加機関	参加者数	寄与文書数
Region 1(CEPT) Rapporteur		1
CITEL Rapporteur		1
Region 3 Rapporteur		1
WP1A		2
WP 4A		
WP 4C		
WP1B		
WP3M		
WP5A		5
WP5C		1
WP5D		
WP6A		1
JTG5-6		1
Convener of Correspondence Group		1
Alcatel-Lucent France, Motorola Inc., ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc.,Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, Huawei Techonologies Co Ltd., Electronics Telecom Reaserch Inst. (ETRI), DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., China Unicom (Hong Kong) Limited, AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.		2
Alcatel-Lucent France, TELE 2 AB, Telstra Corporation Ltd.,TeliaSonela AB, Qualcomm Inc., Telefon AB-LM Ericsson, Deutsche Telekom AG, Bouygues Telecom, Alcatel-Lucent USA Inc.		1
小計	69	61
合計	196	92

付属資料２　ITU-R WP5D第7回会合日本代表団名簿

区 分	氏　名	会社名・団体名	所 属 ・ 役 職
団 長	坂中　靖志	総務省	総合通信基盤局　電波部　移動通信課 新世代移動通信システム推進室長
副団長	佐藤　孝平	(社)電波産業会	常務理事
構成員	北　　豊	イー･モバイル㈱	技術本部　設備基盤部　無線企画 G
構成員	橋本　明	㈱NTT ドコモ	無線標準化推進室　室長
構成員	新　博行	㈱NTT ドコモ	電波部　電波企画担当 担当課長
構成員	田中　晋也	㈱NTT ドコモ	研究開発推進部　国際標準化担当 担当課長
構成員	菅田　　明則	KDDI㈱	技術渉外室　電波部 担当部長
構成員	小西　聡	㈱KDDI 研究所	無線通信方式グループ グループリーダー
構成員	森脇　鉄朗	シャープ㈱	研究開発本部　先端映像・通信技術研究所　第 4 研究室 主事
構成員	小松　裕	ソフトバンクモバイル㈱	モバイルネットワーク本部 ネットワーク統括部 電波部　課長
構成員	本多　美雄	日本エリクソン㈱	技術本部 標準化・レギュレーション担当部長
構成員	鬼頭　英二	日本電気㈱	キャリアネットワーク企画本部 エグゼクティブエキスパート
構成員	石川　　禎典	㈱日立製作所	通信ネットワーク事業部 主任技師
構成員	林　律雄	富士通㈱	事業管理統括部 標準化推進部
構成員	吉井　勇	パナソニック㈱	東京Ｒ＆Ｄセンター 次世代モバイル開発センター　主任技師
構成員	佐藤　　一美	三菱電機㈱	通信システム事業本部通信ｼｽﾃﾑｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｾﾝﾀｰ 戦略事業推進グループ　担当部長
構成員	広池　彰	(社) 電波産業会	研究開発本部 移動通信ｸﾞﾙｰﾌﾟ 担当部長
構成員	木幡　祐一	(社) 電波産業会	研究開発本部 移動通信ｸﾞﾙｰﾌﾟ 主任研究員

付属資料３　日本寄書等の審議結果

項　　目	日本寄書等	内　　容	結　　果
WG-TECH	Doc. 5D/630	本寄与文書は、IMT−Advanced 開発プロセスを促進することを目的として、プロセスのステップ 5（外部評価グループ活動のレビューと調整）を進める以下の作業を行うことを提案する。 - 技術提案、第 6 回会合以降の技術提案者の活動（ワークショップ、コーディネーション会合等）及びコレスポンデンス・グループ活動をレビューして、技術提案者からの十分な情報が提供されるよう必要なアクションをとる。 - 外部評価グループ提出の暫定評価レポートをレビューして、技術提案者及び他の評価グループへの質問をチェック、レポート M.2135−1 に従った評価であることの確認、また WP5Dの評価レポートへのコメントをまとめる。 - 第 7 回と第 8 回会合間に外部評価グループのコーディネーション会合を開催する必要があるが評価する。 - 外部評価グループ及び提案者に対してリエゾンを作成して、現状の外部評価のまとめ、上記評価グループからの質問及び WP5D のコメント、さらには 2010 年 6 月の評価レポート締め切りが計画通りであることを周知する。 - 必要があれば、外部評価グループに対して、コレスポンデンス・グループ活動への参加を促す。 なお本寄与文書は、日中韓の共同寄与文書である。	本寄与文書の提案に従って、IMT-Advanced 開発プロセスの活動が行われ、プロセスのコーディネーション活動に大いに貢献した。具低的には、評価グループの中間／暫定評価レポートのレビューを行い、その結果及び評価活動に重要な情報を評価グループに知らせるリエゾンを作成した。
WG-SPEC	Doc. 5D/631	本寄与文書は、第 6 回 WP5D 会合において更新された M.1036-3 勧告改訂草案に向けた作業文書において、Editor’s Note による指摘や[ ] 付として、さらなる検討が求められている箇所について、具体的な修正提案を行い、勧告改訂の作業を促進するために入力を行った。	日本からの修正は、概ね作業文書に反映され、改訂勧告改訂作業の促進に寄与した。
WG-SPEC	Doc. 5D/632	本寄与文書は、698-960MHz 帯の周波数アレンジメントのための作業文書[IMT.700]に対して、第 6 回 WP5D 会合において指摘された要検討事項を中心に、日本の見解をとして、作業のスコープ、作業完了時期、文章形式、具体的な作業文書の修正を取りまとめ、提案を行った。	仏（CEPT）や米からは、作業文書[IMT.700]の必要性や作業完了後の取り扱いに対する疑問が示され、作業の中止をする提案が行われた。しかしながら、作業継続を提案する日本提案について、作業文書[IMT.700]の作成の提案元であるカナダからの支持もあり、作業文書として作業を継続すること、最終的な取り扱いはM.1036が完成した時点で判断することが合意された。また作業文書の修正にも、日本提案が反映された。

項　　目	日本寄書等	内　　容	結　　果
WG-SPEC	Doc. 5D/633	本寄与文書は、干渉軽減技術に関する新勧告の作成に先立ち、新勧告の目的、基本的な考え方を議論すること提案し、さらに具体的なスコープ、勧告部分を含む作業文書を提案するものである。 具体的には、本勧告は干渉軽減技術そのものにフォーカスすること、周波数は 3.4-3.6GHz 帯に制限しないこと、レポート M.2109 に含まれる干渉軽減技術以外も検討することとし、主管庁間の一般的な議論に利用できることを目的とすべきとした。	SWG SHARING STUDY 及び DG IMT MITIGATION において審議された。 周波数を 3.4-3.6GHz 帯に制限しないことには賛同が得られなかったが、干渉軽減技術が周波数に依存しないとの NOTE を付すことができ、またまた、提案したテキストの一部が作業文書に反映された。
WG-SPEC	Doc. 5D/635	ITU-R レポート M.2039-1 の改訂案へ向けた作業文書において、Editor's note により入力が求められた次の 2 点に対し日本の見解を提案するもの。 1) IMT システムパラメータの規定において近い周波数帯をグループ化することの要否に係る調査 2) 当該レポートが IMT-Advanced をカバーすべきか、あるいは IMT-2000 に限定すべきか これに対し、1)については、グループ化される近い周波数帯の IMT システムパラメータの規定化の要否については、外部団体にコメントをもとめ、それを踏まえて WP5D で注意深く議論・検討されるべきとした。 2)に係る決定は、時期尚早で、IMT-2000 システムパラメータの更新作業に集中すべきとした。	本件について同様のテーマについて仏の入力文書に修正を加えた文書を使って議論し、 1)については、グループ化の要否について外部団体への問い合わせ並びに同一周波数帯でも策定の時期が異なることにより規定に関し更新情報がないか情報を要望する事務連絡文書を作成し送付することになった。 2)については、日本提案と仏提案が同内容で、M.2039 では IMT-Advanced について言及しないことで合意した。 このように日本提案を反映した、事務連絡文書が作成された。
WG-TECH	Doc. 5D/648	本寄与文書は、日中韓の 3 国共同で IMT.RADIO に関して、Scope、Document Type に関する確認を行い、前回会合における無線インタフェース提案を受けて作業文書の更新内容を提案したものである。	SWG-Radio Aspects において討議され、無線インタフェース選定結果は SG5 での承認を受けるべきとの意見が大勢を占めたため Document Type はレポートとすることが決定した。 作業文書に関しては、提案の内容が盛り込み TEMP/315r1 として作成し、次回会合にキャリーフォワードした。
WG-TECH	Doc. 5D/628 （ARIB 寄書）	本寄与文書は、ARIB Evaluation Group の活動状況について報告するものである。	SWG Coordination において紹介された。

付属資料４　入力文書一覧（1/6）

Doc.	TITLE	Source
5D/422 (Rev1)	Information on Sections 5.2 and 5.6 as requested in Document 5D/413, Chapter 1, Section 3.1	carried forward
5D/449	On sharing of CDMA-DS and FDD component of OFDMA TDD WMAN in adjancent channels in the band 790-862 MHz in the same geographical area	carried forward
5D/450	On the applicability of the results in document 5/129 to sharing of CDMA DS and the FDD component of OFDMA TDD WMAN in adjacent channels in the same geographical area	carried forward
5D/556	Revisions of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3	carried forward
5D/597	Report of the sixth meeting of Working Party 5D (Dresden, 14-21 October 2009)	Chairman WP5D
5D/598 (same as 5A/340)	First draft of new Recommendation of K.deg	ITU-T SG 5
5D/599	Liaison statement - Response to comments from WP 5D about ANT Standards overview and Workplan	ITU-T SG 15
5D/600 (same as 5A/398)	Issues drawing attention of the Working Parties in relation to the result of WTPF-09	Chairman, SG 5
5D/601	IMT-2000 OFDMA TDD WMAN submission toward Revision 10 of Recommendation ITU-R M.1457 (Meeting X+1)	IEEE
5D/602 (same as 5B/411)	Liaison statement to Working Party 5B and Working Party 5D - Draft revision of Report ITU-R M.1051-1 - Public mobile telephone service with aircraft	WP 5A
5D/603	Liaison statement to ITU-R Working Party 5D and ITU-T Study Group 12, 15 and 16, on "Performance and availability requirements and objectives for wireless access systems"	WP 5A
5D/604	Liaison statement to WP 5D on the study of cognitive radio systems	WP 5A
5D/605 (same as 4A/289)	Liaison statement to Working Parties 4A, 4C, 5A, 5B, 5D, 6A, 6B, 6C, 7B, 7D and to the Working Party of the Special Committee - WRC-12 Agenda item 1.5 - Harmonization of spectrum for use by terrestrial electronic news gathering systems	WP 1C
5D/606 (same as 5/188)	Liaison statement to ITU-T Study 5 Working Party 2 (copy for information to ITU-R Study Group 5 and Working Party 5D) - Proposal for new K-Series Recommendations	WP 5A
5D/607 (same as 4C/350)	Liaison statement to Working Party 4C (copy to Working Parties 5C and 5D) – WRC 12 Agenda item 1.25	WP 5A
5D/608	Liaison statement - Studies related to the terrestrial television broadcasting service below 1 GHz	WP 6A
5D/609 (same as 6A/293)	Liaison statement to Working Party 5D (copy to WP 6A) - Studies in the band 790 862 MHz related to IMT	JTG 5-6
5D/610	View on the working document [towards a draft new Report ITU-R M.[IMT.700]]	France
5D/611 (same as 4B/114)	Liaison statement on draft ITU-T Recommendation G.9971 (Ghntreq) "Requirements of transport functions in IP home network"	ITU-T SG 15
5D/612	Terrestrial IMT networks development in the timeframe of years 2012-2020	Nokia Corporation, Telefon AB - LM Ericsson, NTT DoCoMo, Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG

付属資料４　入力文書一覧（2/6）

Doc.	TITLE	Source
5D/613	Roadmap update for CDMA MC for Recommendation ITU-R M.1457	Agilent Technologies Inc., Qualcomm Inc., Alcatel Lucent USA Inc.
5D/614	IMT-2000 TDMA-SC Roadmap update	Alliance for Telecom. Industry Solution
5D/615	Preliminary update material for CDMA MC for Recommendation ITU-R M.1457 update to Revision 10 Section 5.2.1	Agilent Technologies Inc., Qualcomm, Inc., Alcatel Lucent USA Inc.
5D/616	Discontinuation of work in IMT.700	United States of America
5D/617	Consideration of work to assess the compatibility of IMTS systems with other systems including those of other service in the band 698-960 MHz	United States of America
5D/618	Draft response to liaison statement from Working Party 5C on harmonization of spectrum for use by terrestrial electronic news gathering systems	United States of America
5D/619	Comments/Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	United States of America
5D/620	Update submission of IMT-2000 CDMA DS and IMT-2000 CDMA TDD toward Revision 10 of Recommendation ITU-R M.1457	Alcatel-Lucent France, Motorola Inc., ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, Huawei Techonologies Co. Ltd., Electronics Telecom. Research Inst. (ETRI), DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., China Unicom (Hong Kong) Limited, ATT & T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.

Doc.	TITLE	Source
5D/621	Updated information on the Roadmap for IMT 2000 CDMA DS & IMT-2000 CDMA TDD - Roadmap for current work relevant to future updates of Recommendation ITU-R M.1457	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronic Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, Motorola Inc., Huawei Tech. Co. Ltd., Electronics Telecom. Research Inst. (ETRI), DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., China Unicom (Hong Kong) Limited, ATT & T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/622	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RR)	Canada
5D/623	Report of first IEEE 802.16 IMT-Advanced evaluation group coordination meeting	IEEE
5D/624	Proposed modifications for the second revision to the Report ITU-R M.2039 and proposed liaison statement to external organizations	France
5D/625	Working document towards a PDNR on techniques to improve the sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4-3.6 GHz band	France
5D/626	Elements for the response to the liaison statement from JTG 5-6 (Doc. 5D/609)	France
5D/627	Elements for the working document towards a preliminary draft new Report on congnitive radio systems for IMT systems	France
5D/628	Status update of the ARIB evaluation group	Director, BR Submitted on behalf of Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)
5D/629	Report of first 3GPP LTE-Advanced evaluation workshop	Director, BR Submitted on behalf of 3GPP TSG-RAN Chairman
5D/630	Proposal of actions for IMT-Advanced development at the 7th Working Party 5D meeting	China (People's Republic of), Korea (Republic of), Japan
5D/631	Proposed modifications on the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	Japan

Doc.	TITLE	Source
5D/632	Proposed way forward and modifications of the working document [IMT.700]	Japan
5D/633	Proposed scope and basic principle in development of a PDNR ITU-R M.[IMT MITIGATION]	Japan
5D/634	Update on CITEL PCC.II activities	CITEL Rapporteur
5D/635	Response to requests for comments in working document towards a draft revision of Report ITU-R M.2039-1	Japan
5D/636	Revision of Recommendations ITU-R M.1580 3 and ITU-R M.1581-3	WiMAX Forum
5D/637	Revisions of Handbook on deployment of IMT 2000 systems and Supplement 1 (migration to IMT-2000 systems)	WiMAX Forum
5D/638	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	WiMAX Forum
5D/639	Proposed example of the isolation between co located base station antennas in the band 2 500-2 690 MHz	WiMAX Forum
5D/640	DECT information regarding the update of Recommendation ITU-R M.1457	ETSI
5D/641	Contribution to working document towards a preliminary draft new Report on isolation for antennas of base stations in the land mobile service including IMT	Qualcomm Inc.
5D/642	Change proposals to Recommendation ITU-R M.1036 in order to clarify the benefits linked to dual duplexer FDD band plans	UMTS Forum
5D/643	Change proposals to Recommendation ITU-R M.1036 in order to include clear Recommendations on frequency arrangements	UMTS Forum
5D/644	Contribution to assist in the development of a Working Party 5D response to the liaison statement from JTG 5-6 given in Document 5D/609	Alcatel-Lucent France, TELE 2 AB, Telstra Corporation Ltd., TeliaSonera AB, Qualcomm Inc., Telefon AB LM Ericsson, Deutsche Telekom AG, Bouygues Telecom, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/645	Further clarification on antenna pattern and sector pattern	China (People's Republic of)
5D/646	Proposal on methods to determine antenna isolation	China (People's Republic of)
5D/647	Proposal on the workplan and draft working document on the CRS specific for IMT systems - Cognitive radio systems specific for IMT systems	China (People's Republic of)
5D/648	Proposals on the working document of IMT.RADIO	China (People's Republic of), Japan, Korea (Republic of)
5D/649	Text proposal on introduction and scope on the preliminary draft new Report (PDNR) on isolation for antennas in the land mobile service including IMT systems	China (People's Republic of)
5D/650	Preliminary evaluation Report on 3GPP LTE RELEASE 10 & beyond	Director, BR Submitted on behalf of the Chinese Evaluation Group

Doc.	TITLE	Source
5D/651	The evaluation of candidate IMT-Advanced technologies - Preliminary Report by WiMAX Forum evaluation group (WFEG)	Director, BR Submitted on behalf of the WiMAX Forum Evaluation Group (WFEG)
5D/652	Preliminary evaluation Report on the proposed candidate IMT-Advanced (S) radio interface technology based on 3GPP LTE Release 10 & beyond (LTE-Advanced)	Director, BR Submitted on behalf of TTA PG707
5D/653	Preliminary evaluation Report on the proposed candidate IMT-Advanced radio interface technology based on IEEE 802.16	Director, BR Submitted on behalf of TTA PG707
5D/654	Proposal for modified text for the scope of Recommendation ITU-R M.1036	Germany (Federal Republic of)
5D/655	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3" (Att. 5.6 of Doc. 5D/597)	Germany (Federal Republic of)
5D/656	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3 in order to include clear Recommendations on frequency arrangements	Telefon AB - LM Ericsson
5D/657	Interim Report on the progress on IMT Advanced candidate technology evaluation	Director, BR Submitted on behalf of TCOE India
5D/658	Format, scope and content of Report ITU-R M.[IMT.RADIO]	AT&T Inc., Telefon AB - LM Ericsson, Nokia Corporation
5D/659	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	United Arab Emirates
5D/660	Simulator calibration for IMT-Advanced evaluations in independent evaluation Group WINNER	Director, BR Submitted on behalf of the Independent Evaluation Group WINNER+
5D/661	Preliminary evaluation Report from WINNER+ on the IMT-Advanced proposal in IMT ADV/6, 8 and 9	Director, BR Submitted on behalf of the Independent Evaluation Group WINNER+
5D/662	Intermediate evaluation Report of the IMT Advanced RIT based on the IEEE Technology (IEEE 802.16M)	Director, BR Submitted on behalf of the Russian Evaluation Group (REG)
5D/663	Proposed detailed workplan on draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	Korea (Republic of)
5D/664	Mitigation techniques between IMT and FSS in the band 3.4-3.6 GHz	Korea (Republic of)
5D/665	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	Colombia (Republic of)
5D/666	Proposed update of the Recommendation ITU R M.1036-3	Brazil (Federative Republic of)
5D/667	Preliminary Report of WCAI IMT-Advanced evaluation group (WCAI EG)	Director, BR Submitted on behalf of the Wireless Communications Association International (WCAI) Evaluation Group

付属資料４　入力文書一覧（6/6）

Doc.	TITLE	Source
5D/668	Interim evaluation Report on the candidate proposals submitted to Working Party 5D of the ITU-R	Director, BR Submitted on behalf of the Canadian Evaluation Group (CEG)
5D/669	Interim Report on activities of TIA TR-45 Ad Hoc on International Mobile Telecommunications	Director, BR Submitted on behalf of TIA TR-45 Ad hoc on International Mobile Telecommunications
5D/670	ATIS WTSC preliminary Evaluation Report on the IMT Advanced proposal in document IMT ADV/8	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/671	ATIS WTSC preliminary Evaluation Report on the IMT-Advanced proposal in IMT ADV/4	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/672 (same as 1B/211)	Liaison statement to Working Parties 1B, 3K, 4A, 5A, 5D, 6A and 7C - WRC-12 Agenda item 1.22 (Resolution 953 (WRC-07))	Working Party 1A
5D/673 (same as 5A/426)	Liaison statement to Working Parties 5A and 5D - Antenna-to-antenna interference of two systems in the land mobile service	Working Party 1A
5D/674	Report of Correspondence Group for IMT Advanced Evaluation Groups	Convener of Correspondence Group
5D/675	Update on recent activities within CEPT	ITU Region 1 (CEPT) Rapporteur
5D/676	Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3	Region 3 Rapporteur

付属資料５　出力文書一覧

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
288 Rev.1	WORKING DOCUMENT TOWARDS REVISION 4 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1580-3 GENERIC UNWANTED EMISSION CHARACTERISTICS OF BASE STATIONS USING THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF IMT-2000	WG Technology Aspects	1、イ、e
289 Rev.1	WORKING DOCUMENT TOWARDS REVISION 4 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1581 GENERIC UNWANTED EMISSION CHARACTERISTICS OF MOBILE STATIONS USING THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF IMT-2000	WG Technology Aspects	1、イ、e
290 Rev.1	MEETING REPORT OF SWG M.1580/81	Chairman, TECH SWG M.1580/81	1、ル、c
291 Rev.1	INTERNAL LIAISON STATEMENT TO AD HOC VOCABULARY TERMS AND ABBREVIATIONS USED IN RECENTLY APPROVED DELIVERABLES	AH Vocabulary	1、ホ、e
292	[DRAFT] LIAISON STATEMENT TO WP 5A (COPY TO WP 5B) DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R M.1051-1 - PUBLIC MOBILE TELEPHONE SERVICE WITH AIRCRAFT	WG General Aspects	2、ホ、a
293	[DRAFT] LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 5 DRAFT ITU-T RECOMMENDATION K.DEG "MUTUAL-DISTURBANCE TEST REQUIREMENTS FOR PERFORMANCE DEGRADATION EVALUATION OF CONVERGED TERMINAL DEVICES"	WG General Aspects	2、ホ、a
294	DRAFT TEXTS FOR THE LIAISON STATEMENT TO ALL THE INDEPENDENT EVALUATION GROUPS	SWG Evaluation	1、ホ、c
295	WORKING DOCUMENT [TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.700]] ASPECTS OF THE IMT FREQUENCY ARRANGEMENTS IN THE 698-960 MHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
296	PROPOSED LIAISON STATEMENT TO ITU-D SG 2 AND ITU-T SG 13 REGARDING THE IMT-2000 HANDBOOK	WG General Aspects	1、ホ、e
297	MEETING REPORT OF DG IMT-2000 HANDBOOK SUPPLEMENT 1	Chairman, DG IMT-2000 Handbook Supplement 1	1、ル、c
298	WORKING DOCUMENT TOWARD A REVISION OF SUPPLEMENT 1 OF THE IMT-2000 HANDBOOK	WG General Aspects	1、ヘ、e
299	DETAILED WORK PLAN FOR REVISION(S) OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3	AH – Workplan	1、ヌ、e
300	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3 FREQUENCY ARRANGEMENTS FOR IMPLEMENTATION OF THE TERRESTRIAL COMPONENT OF INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS (IMT) IN THE BANDS IDENTIFIED FOR IMT IN THE RADIO REGULATIONS (RR)	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
301	MEETING REPORT	Chairman, SWG Frequency Arrangements	1、ル、c
302	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.MITIGATION] TECHNIQUES TO IMPROVE THE COMPATIBILITY OR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4 - 3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
303	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 4A (COPIED TO WORKING PARTY 5A FOR INFORMATION) TECHNIQUES TO IMPROVE THE COMPATIBILITY OR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4 - 3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
304	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS TECHNIQUES TO IMPROVE THE COMPATIBILITY OR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4 - 3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
305	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON ISOLATION FOR ANTENNAS OF BASE STATIONS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
306	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-R WORKING PARTIES 1A AND 5A (COPIED FOR INFORMATION TO ITU-T STUDY GROUP 5) ISOLATION BETWEEN CO-LOCATED ANTENNAS OF SYSTEMS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
307	DRAFT LIAISON STATEMENT TO JTG 5-6 (COPIED TO WP 6A FOR INFORMATION) IMT PARAMETERS FOR THE BAND 790-862 MHZ	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
308	DETAILED WORKPLAN FOR SHARING AND COMPATIBILITY STUDIES IN THE UHF BAND	AH – Workplan	1、ヌ、e
309 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 6A (COPIED TO WORKING PARTIES 5A, 5B AND 5C FOR INFORMATION) SHARING AND COMPATIBILITY STUDIES RELATED TO IMT SYSTEMS IN THE MOBILE SERVICE	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
310	WORKING DOCUMENT TOWARDS A DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1 CHARACTERISTICS OF TERRESTRIAL IMT-2000 SYSTEMS FOR FREQUENCY SHARING/INTERFERENCE ANALYSES	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
311	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
312 Rev.1	[DRAFT] LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 15 ON DRAFT ITU-T RECOMMENDATION G.9971	WG Technology Aspects	2、ホ、a
313	WORKPLAN FOR COGNITIVE RADIOS (CR) ISSUES RELATED TO IMT	AH – Workplan	1、ヌ、e
314	WORKING DOCUMENT TOWARDS THE PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.CRS] COGNITIVE RADIO SYSTEMS SPECIFIC FOR IMT SYSTEMS	WG Technology Aspects	1、ロ、e
315 Rev.1	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON THE FRAMEWORK AND CHARACTERISTICS OF THE RADIO INTERFACES OF IMT-ADVANCED [IMT.RADIO]	WG Technology Aspects	1、ロ、e
316 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO INDEPENDENT EVALUATION GROUPS (COPY TO IMT-ADVANCED TECHNOLOGY PROPONENTS) FOR EVALUATION ON CANDIDATE IMT-ADVANCED	WG Technology Aspects	2、ホ、a
317 Rev.2	MEETING REPORT OF SWG COORDINATION	SWG Coordination	1、ル、c
318	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5C (COPIED TO WORKING PARTY 6A FOR INFORMATION) WRC-12 AGENDA ITEM 1.5 HARMONIZATION OF SPECTRUM FOR USE BY TERRESTRIAL ELECTRONIC NEWS GATHERING SYSTEMS	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
319	DETAILED WORK PLANS FOR SWG SHARING STUDIES	AH – Workplan	1、ヌ、e
320	MEETING REPORT SWG SHARING STUDIES	Chairman, SWG Sharing Studies	1、ル、c
321	ROADMAP FOR CURRENT WORK RELEVANT TO FUTURE UPDATES OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457	WG Technology Aspects	1、ヲ、e
322	DETAILED WORK PLAN ON DETAILED SPECIFICATIONS FOR IMT-ADVANCED, [IMT.RSPEC]	AH Workplan	1、ヌ、e
323 Rev.1	MEETING REPORT OF TECHNOLOGY SWG IMT_SPECS	Chairman, SWG IMT_SPECS	1、ル、c

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
324	MEETING REPORT OF WG GENERAL ASPECTS	Chairman, WG General Aspects	2、ル、a
324 Att.1	PROPOSED PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT M.[IMT.UPDATE]	WG General Aspects	2、ロ、e
324 Att.1	DETAILED WORK PLAN ON PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON MOBILE MARKET STATUS [IMT.UPDATE]	AH – Workplan	2、ヌ、e
324 Att.2	PROPOSED WORKSHOP ON “IMT FOR THE NEXT DECADE”	WG General Aspects	2、ヲ、e
325	MEETING REPORT	SWG Evaluation	1、ル、c
326 Rev.1	MEETING REPORT OF SWG RADIO ASPECTS	SWG Radio Aspects	1、ル、c
327	MEETING REPORT OF WORKING GROUP SPECTRUM ASPECTS	WG Spectrum Aspects	2、ル、a
328	ITU-R WORKING PARTY 5D STRUCTURE AND WORKPLAN	AH – Workplan	1、ヌ、e
329	MEETING REPORT OF AD HOC WORKPLAN	Chairman, Ad Hoc Workplan	2、ル、a
330	MEETING REPORT AD HOC VOCABULARY	AH Vocabulary	2、ル、a
331 Rev.1	DETAILED WORK PLAN FOR IMT.RADIO	AH – Workplan	1、ヌ、e
332	MEETING REPORT OF WORKING GROUP TECHNOLOGY ASPECTS	Chairman, WG Technology Aspects	2、ル、a

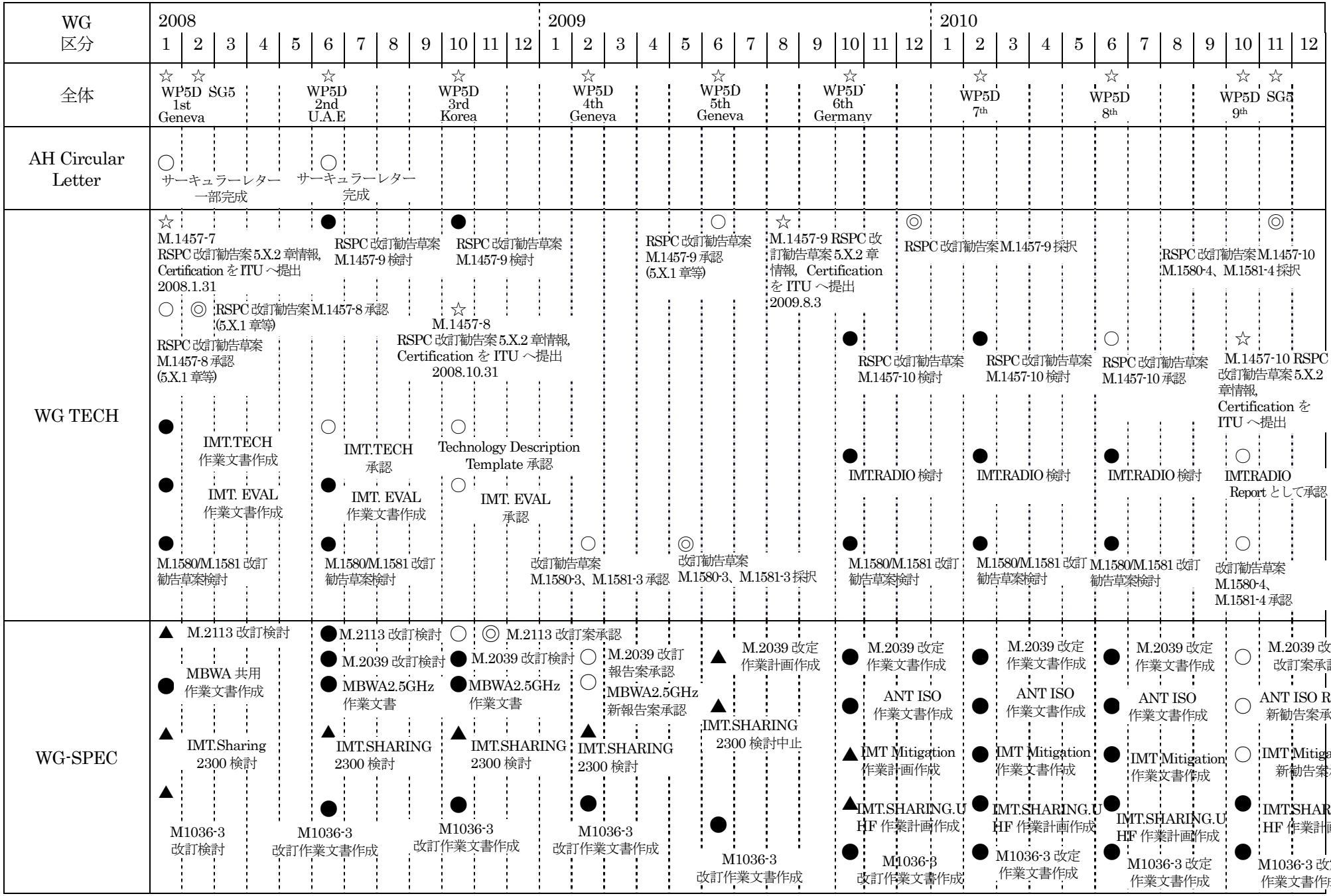
＊分類

1	修正無し
2	修正有り

イ	勧告案
ロ	レポート案
ハ	決議（Resolution）案
ニ	Question 案
ホ	Liaison statement
ヘ	Hand book text
ト	CPM Report text
チ	Circular letter text
リ	Text for web page or ADV document
ヌ	Work plan
ル	Meeting report
ヲ	その他（未定を含む）

a	WP5D として承認
b	WP5D として合意（SG 会合提出）
c	WP5D PL 審議対象外
d	WP5D として否決（削除）
e	WP5D として継続（キャリーオーバー）

付属資料６　各WGの当面のスケジュール(1/2)



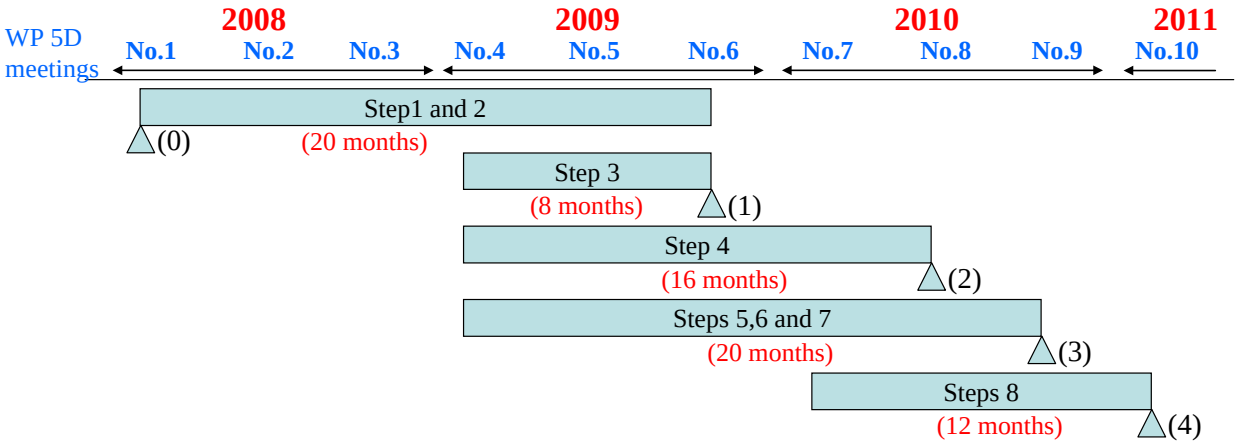
注 1)　●：作業文書の作成　△ ▲：準備等　○：勧告草案の承認（WP5D）　◎：勧告案の採択又は報告案の承認（SG5）　◎：勧告として成立

付属資料６　各 WG の当面のスケジュール(2/2)

WG 区分	2011 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2012 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2013 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全体		☆ CPM	☆ WP5D 10th			☆ WP5D 11th				☆ WP5D 12th			☆ RA WRC																						
WG TECH			○ M.[IMT.RSPEC] 勧告草案承認																																	
			● IMT.CRS 検討			○ IMT.CRS 承認																														
WG-SPEC			● IMT.SHARING.UHF 作業文書作成			● IMT.SHARING.UHF 作業文書作成				○ IMT.SHARING.UHF 新報告案作成																										
			○ M1036-3 改訂案承認																																	

注 1)　●：作業文書の作成　△ ▲：準備等　○：勧告草案の承認（WP5D）　◎：勧告案の採択又は報告案の承認（SG5）　◎：勧告として成立

参考資料１　IMT-Advanced無線インタフェース勧告の開発スケジュール



Steps in radio interface development process:

Step 1: Issuance of the circular letter
Step 2: Development of candidate RITs and SRITs
Step 3: Submission/Reception of the RIT and SRIT proposals and acknowledgement of receipt
Step 4: Evaluation of candidate RITs and SRITs by evaluation groups
Step 5: Review and coordination of outside evaluation activities
Step 6: Review to assess compliance with minimum requirements
Step 7: Consideration of evaluation results, consensus building and decision
Step 8: Development of radio interface Recommendation(s)

Critical milestones in radio interface development process:

(0): Issue an invitation to propose RITs	March 2008
(1): ITU proposed cut off for submission of candidate RIT and SRIT proposals	October 2009
(2): Cut off for evaluation report to ITU	June 2010
(3): WP 5D decides framework and key characteristics of IMT-Advanced RITs and SRITs	October 2010
(4): WP 5D completes development of radio interface specification Recommendations	February 2011

IMT-Advanced A2-01

IMT-ADV/2-E　Revision.1